<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">SCH100:　人間学Ⅰ</td><td rowspan="3">担当教員</td><td rowspan="3" colspan="2">丹木 博一，小林 宏子，
寒野 康太，W. Nampet，
島村 絵里子</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春</td><td>分類</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>単位</td><td>2</td><td>標準受講年次</td><td>1年</td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP及び
学修成果</td><td>DP分類</td><td colspan="4">DP(卒業認定・学位授与の方針)概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>1, 2, 3</td><td colspan="4">キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し､他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます｡学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ､幅広い教養を修得できます｡自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ､英語を実践的かつ学術的に運用できます｡</td><td>1-①, 2-①, 3-④</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="6">人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味</td></tr>
<tr><td>担当教員の連絡情報</td><td colspan="6">各科目担当教員の個別シラバスを参照すること。
Refer to the individual syllabus for each class and teacher.</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="6">建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="6">「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="6">①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。
②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。
③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。
④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="6">①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。1%×13回。
当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は1%の配点とする。
②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14回
③中間課題：1,000～1,200字の小レポート。25%
「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。
④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35%
（i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10%
（ii）700～800字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%
【Nampet講師の評価方法および評価基準は人間学Ⅰ（S）のシラバスを参照すること。】</td></tr>
<tr><td>準備学修の時間</td><td colspan="6">本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。</td></tr>
</table>

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1-14	各科目担当教員の個別シラバスを参照すること。 Refer to the individual syllabus for each class and teacher.		

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』 【Nampet 講師のテキストは人間学Ⅰ（S）のシラバスを参照すること。】
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫） 【Nampet 講師の参考書は人間学Ⅰ（S）のシラバスを参照すること。】
その他 特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100:　人間学Ⅰ ①　　＜月のみ＞					担当教員	小林　宏子
開講期	春	開講時限	月 1 限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味
授業の概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。
評価方法	①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200 字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×13 回。当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は 1%の配点とする。 ②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14 回 ③中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。25% 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35% （i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10% （ii）700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	人間学Ⅰについて、科目の目的・目標、授業の進め方、テキスト 1「キリスト教の人間観とは」	講義、グループ活動、リアクションペーパー	教科書の「はじめに」を読む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
2	第1章「いのちを支えるものとのかかわり」 テキスト2「生命のはじまり」	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト1「キリスト教の人間観とは」を要約する。テキスト2「生命のはじまり」を読む。
3	第1章「いのちを支えるものとのかかわり」 人間として成長するために必要なもの	講義、グループ活動、リアクションペーパー	資料集1マズローのニード論を要約する。
4	第2章「成長発達を促すものとのかかわり」 テキスト3「人間の成長とライフサイクル」 成熟と自立について	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト3「人間の成長とライフサイクル」の前半部分（1～4）を要約する。
5	第2章「成長発達を促すものとのかかわり」 テキスト3「人間の成長とライフサイクル」 今の自分の発達課題について考える	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト3「人間の成長とライフサイクル」の後半部分（5～終わりに）を要約する。
6	第3章「他者へのかかわりと自己理解の形成」 他者のまなざしとアイデンティティー形成	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト4「ジェンダーと他者」の後半部分（8～11）、及び、資料集3を要約する。
7	第3章「他者へのかかわりと自己理解の形成」 アイデンティティー形成を妨げるもの	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」を要約する。
8	第4章「他者へのかかわりにおける自由と責任」「自由への旅」	テキスト講読、講義、グループ活動	中間レポート提出
9	第4章「他者へのかかわりにおける自由と責任」招きとしての自由 中間レポートに対するコメント	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」後半部分（4～終わりに）を要約する。
10	第5章「人間の苦しみの意味と希望」 人間の苦しみについて	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	第5章　導入と資料集を読み、人生における病苦について考察したことをまとめる
11	第5章「人間の苦しみの意味と希望」 死の受容のプロセス・悲嘆のプロセス	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト7「死をめぐるかかわり」を要約する。
12	第5章「人間の苦しみの意味と希望」 苦しみと人間の尊厳	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	定期試験の準備をする
13	超越とのかかわり	講義、DVD視聴、グループ活動、リアクションペーパー	定期試験の準備をする
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
14	人間学Iのまとめ 定期試験の返却とコメント	学生の発表、講評	「人間学Iで学んだこと」についてまとめ、発表の準備をする

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100:　人間学Ⅰ ②　　＜月のみ＞					担当教員	寒野　康太
開講期	春	開講時限	月 2 限	研究室	4 号館 2 階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	

DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味
授業の 概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。
評価方法	①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200 字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×13 回。当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は 1%の配点とする。 ②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14 回 ③中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。25% 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35% （i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10% （ii）700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%
準備学修 の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	人間学について　本学の理念との関係 イエスの生涯と人文学との関係	講義、グループ分け、リアクション・ペーパー	テキストの「はじめに」を読み、イエスについてのイメージをまとめておくこと。
2	テーマ 1「いのちを支えるものとの関わり」 特に、人間の命について考えを深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト 2「生命のはじまり」を読み、まとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	テーマ1の続き、人間の生命の始まりに関して、また、心理の問題	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト2「生命のはじまり」を読み、まとめる。
4	テーマ2「成長発達を促すものとのかかわり」人間の成長について	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト3「人間の成長とライフサイクル」を読み、まとめる。
5	テーマ2の続き、共同体の中での自己の成長について	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト3「人間の成長とライフサイクル」を読み、まとめる。
6	テーマ3「他者への関わりと自己理解の形成」性と、自分自身・アイデンティティー	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト4「ジェンダーと他者」を読み、まとめる。
7	テーマ3「他者への関わりと自己理解の形成」社会への参加、正しい社会とは何か	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」を読み、まとめる。
8	テーマ3の続き、今の社会と人間性の尊重 6や7で学んだ事を現代の社会の中で考察する	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」を読み、まとめる。
9	テーマ4「他者への関わりにおける自由と責任」自由について考えを深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト6「自由への旅」を読み、まとめる。
10	テーマ4の続き、自分の生き方と自由であることについて、考察を深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト6「自由への旅」を読み、まとめる。
11	テーマ5「人生の苦しみの意味と希望」生きているときにであう苦しみを考察する	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
12	テーマ5の続き 死生学の問題について考察する	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
13	テーマ5の続き 死生学の問題について身近な問題を取り上げながら、議論を深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
14	定期試験解答返却と人間学のまとめ	講義 リアクション・ペーパー	これまでの振り返りをとおして、人間学で学んだ点をまとめておく。

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ③ ＜月のみ＞					担当教員	寒野 康太
開講期	春	開講時限	月 1 限	研究室	4 号館 2 階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	

DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味
授業の 概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。
評価方法	①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200 字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×13 回。当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は 1%の配点とする。 ②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14 回 ③中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。25% 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35% （i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10% （ii）700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%
準備学修 の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	テーマ 1「いのちを支えるものとの関わり」 特に、人間の命について考えを深める	講義、グループ分け、リアクション・ペーパー	テキストの「はじめに」を読み、イエスについてのイメージをまとめておくこと。
2	テーマ 1「いのちを支えるものとの関わり」 特に、人間の命について考えを深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト 2「生命のはじまり」を読み、まとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	テーマ1の続き、人間の生命の始まりに関して、また、心理の問題	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト2「生命のはじまり」を読み、まとめる。
4	テーマ2「成長発達を促すものとのかかわり」人間の成長について	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト3「人間の成長とライフサイクル」を読み、まとめる。
5	テーマ2の続き、共同体の中での自己の成長について	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト3「人間の成長とライフサイクル」を読み、まとめる。
6	テーマ3「他者への関わりと自己理解の形成」性と、自分自身・アイデンティティー	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト4「ジェンダーと他者」を読み、まとめる。
7	テーマ3「他者への関わりと自己理解の形成」社会への参加、正しい社会とは何か	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」を読み、まとめる。
8	テーマ3の続き、今の社会と人間性の尊重 6や7で学んだ事を現代の社会の中で考察する	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」を読み、まとめる。
9	テーマ4「他者への関わりにおける自由と責任」自由について考えを深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト6「自由への旅」を読み、まとめる。
10	テーマ4の続き、自分の生き方と自由であることについて、考察を深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト6「自由への旅」を読み、まとめる。
11	テーマ5「人生の苦しみの意味と希望」生きているときにであう苦しみを考察する	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
12	テーマ5の続き 死生学の問題について考察する	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
13	テーマ5の続き 死生学の問題について身近な問題を取り上げながら、議論を深める	講義、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
14	定期試験解答返却と人間学のまとめ	講義 リアクション・ペーパー	これまでの振り返りをとおして、人間学で学んだ点をまとめておく。

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">SCH100:　人間学Ⅰ ④　　＜月のみ＞</td><td>担当教員</td><td>島村　絵里子</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春</td><td>開講時限</td><td>月 2 限</td><td>研究室</td><td>4 号館 2 階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>必修</td><td>単位</td><td>2</td><td>標準受講年次</td><td>1 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP(卒業認定・学位授与の方針)概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>1, 2</td><td colspan="5">キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>1-①, 2-①</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。
②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。
③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。
④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200 字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×13 回。当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は 1%の配点とする。
②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14 回
③中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。25%
「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。
④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35%
（i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10%
（ii）700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。</td></tr>
</table>

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	導入①： 人間学の概要・目的・授業の進め方	講義・リアクションペーパー	テキスト 6「自由への旅」 1～3 節の要約

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
2	導入②： キリスト教ヒューマニズムへの招き	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 1「人間学とキリスト教ヒューマニズム」1 節の要約
3	1. 生きるために必要なものとのかかわり① ～自分のいのちと他者のいのち	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 2「生命のはじまり」1, 2 節の要約
4	1. 生きるために必要なものとのかかわり② ～他者のいのちとのかかわり	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 2「生命のはじまり」3, 4 節の要約
5	2. 人間の成長発達の条件となるかかわり① ～自立と自律	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 3「人間の成長とライフサイクル」1～4 節の要約
6	2. 人間の成長発達の条件となるかかわり② ～人生経路のモデルから自分を発見	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 3「人間の成長とライフサイクル」5, 6 節の要約
7	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成① ～自分と他者の「ジェンダー」	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 4「ジェンダーと他者」の要約
8	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成② ～人間の尊厳と権利	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 5「公正な社会、差別なき世界へ」1, 2 節の要約
9	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成③ ～差別問題の理解と自己理解	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 5「公正な社会、差別なき世界へ」3, 4 節の要約
10	4. 他者へのかかわりにおける自由と責任① ～「自由」の二つの側面	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」4, 5 節の要約
11	4. 他者へのかかわりにおける自由と責任② ～「招きとしての自由」	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」6 節の要約
12	5. 人生の苦しみの意味と希望① ～死に向かい合うこと	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 7「死をめぐるかかり」1, 2 節の要約
13	5. 人生の苦しみの意味と希望② ～苦しみに向かい合うこと	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 7「死をめぐるかかり」3, 4 節の要約
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
14	まとめ：再び　キリスト教ヒューマニズム 定期試験の返却と講評	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト 1「人間学とキリスト教ヒューマニズム」2 節の要約

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14 回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ⑤ ＜月のみ＞					担当教員	島村 絵里子
開講期	春	開講時限	月１限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味
授業の概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。
評価方法	①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×13 回。当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は1%の配点とする。 ②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14回 ③中間課題：1,000～1,200字の小レポート。25% 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35% （i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10% （ii）700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	導入①： 人間学の概要・目的・授業の進め方	講義・リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」1～3節の要約

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
2	導入②： キリスト教ヒューマニズムへの招き	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト1「人間学とキリスト教ヒューマニズム」1節の要約
3	1. 生きるために必要なものとのかかわり① ～自分のいのちと他者のいのち	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト2「生命のはじまり」1, 2節の要約
4	1. 生きるために必要なものとのかかわり② ～他者のいのちとのかかわり	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト2「生命のはじまり」3, 4節の要約
5	2. 人間の成長発達の条件となるかかわり① ～自立と自律	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト3「人間の成長とライフサイクル」1～4節の要約
6	2. 人間の成長発達の条件となるかかわり② ～人生経路のモデルから自分を発見	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト3「人間の成長とライフサイクル」5, 6節の要約
7	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成① ～自分と他者の「ジェンダー」	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト4「ジェンダーと他者」の要約
8	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成② ～人間の尊厳と権利	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」1, 2節の要約
9	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成③ ～差別問題の理解と自己理解	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」3, 4節の要約
10	4. 他者へのかかわりにおける自由と責任① ～「自由」の二つの側面	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」4, 5節の要約
11	4. 他者へのかかわりにおける自由と責任② ～「招きとしての自由」	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」6節の要約
12	5. 人生の苦しみの意味と希望① ～死に向かい合うこと	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト7「死をめぐるかかり」1, 2節の要約
13	5. 人生の苦しみの意味と希望② ～苦しみに向かい合うこと	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト7「死をめぐるかかり」3, 4節の要約
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
14	まとめ：再び　キリスト教ヒューマニズム 定期試験の返却と講評	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト1「人間学とキリスト教ヒューマニズム」2節の要約

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">SCH100:　人間学Ⅰ ⑥　　＜月のみ＞</td><td>担当教員</td><td>丹木　博一</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春</td><td>開講時限</td><td>月 2 限</td><td>研究室</td><td>4214</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>必修</td><td>単位</td><td>2</td><td>標準受講年次</td><td>1 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP（卒業認定・学位授与の方針）概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>1, 2</td><td colspan="5">キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>1-①, 2-①</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現するための道しるべを探求する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。
②人間の間に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。
③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。
④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">①毎回の事前課題の提出（26%）、②授業毎のリアクションペーパー（14%）、③中間課題（1,000～1,200 字の小レポート）（25%）、④定期試験（選択式問題と小論文）（35%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。2%×13 回。当日授業開始時に回収する。提出が遅れた場合は 1%の配点とする。
②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。1%×14 回
③中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。25%
「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。
④定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。35%
（i）選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10%
（ii）700～800 字の小論文を作成してもらう。人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえながら、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、事前に最低一冊の参考文献を読み、そのポイントを簡潔に要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。25%</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。</td></tr>
</table>

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	人間学の概要・目的・進め方 テーマ 1「いのちを支えるものとのかかわり」 ①私たちのいのちをめぐる状況は?	講義・グループ分け リアクションペーパー	教科書①テキスト 2「生命のはじまり」の前半部分を読み、まとめる。
2	②私たちのいのちは何によって支えられているか?	講義・DVD 視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 2「生命のはじまり」の後半部分を読み、まとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	③生きるために必要なことを満たすために私たちは何をなすべきか?	講義・DVD 視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①資料集 1 のマズローのニード論を読み、まとめる。
4	テーマ 2「成長発達を促すものとのかかわり」①成長の過程にはどのようなかかわりがあるだろうか?	講義・絵本の朗読・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 3「人間の成長とライフサイクル」の前半を読み、まとめる。
5	②かかわりをとおして自分はどのような成長を遂げたのだろうか?	講義・DVD 視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 3「人間の成長とライフサイクル」の後半を読み、まとめる。
6	テーマ 3「他者へのかかわりと自己理解の形成」①他者を自分とは異なる者として意識するのはどのような場合だろうか?	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 4「ジェンダーと他者」を読み、まとめる。
7	②私たちのアイデンティティはどのように形成されているのだろうか?	講義・DVD 視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 5「公正な社会、差別なき世界へ」を読み、まとめる。
8	テーマ 4「他者へのかかわりにおける自由と責任」①他者との共生にはどのような問題があるだろうか?	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	これまで授業を受けて学びになったことをまとめる。 中間レポート提出
9	②その問題は何に起因するのだろうか?	講義・DVD 視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 6「自由への旅」の前半を読み、まとめる。
10	③それはどのように解決可能だろうか?	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 6「自由への旅」の後半を読み、まとめる。
11	テーマ 5「人生の苦しみの意味と希望」①人間に避けられない宿命としての苦しみにどのようなものがあるだろうか?	講義・DVD 視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 1「キリスト教の人間観とは」の前半を読み、まとめる。
12	②人生に苦しみがあることは何を意味するのだろうか?	講義・絵本の朗読・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 1「キリスト教の人間観とは」の後半を読み、まとめる。
13	③苦しみを受け止め、希望を持って生きていく可能性はどこに求められるだろうか?	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト 7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
14	まとめ ※定期試験の返却とコメント	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	テーマ 4 と 5 について学びとなったことをまとめる。

テキスト	①上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』（事前購入のこと）
参考書	ヴィクトール・フランクル（池田香代子訳）『夜と霧』（みすず書房） エーリッヒ・フロム（鈴木晶訳）『愛するということ』（紀伊國屋書店） キューブラー・ロス（鈴木晶訳）『死ぬ瞬間』（中公文庫）
その他 特記事項	14 回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100:　人間学Ⅰ（S）　＜月のみ＞					担当教員	W. Nampet
開講期	春	開講時限	月２限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
DP及び 学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点
	1, 2, 3	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。					1-①, 2-①, 3-④
キーワード	Humanity, Human Evolution and Behaviors, Life, Consciousness, Freedom, Morality, Maturity						
授業の 概要	Anthropology, a study of humanity, deals with all that is characteristic of the human experiences, from physiology and the evolutionary origins to the social and cultural organization of human societies as well as individual and collective forms of human experiences. This course focuses on the understanding of human evolution, and the main essential characteristics of becoming an individual as human “life”, namely, development of consciousness, freedom, morality, maturity, Eros, etc.						
達成目標	The aim of this course is to examine a view of human being in accordance with the spirit of the Sophia foundation, which is grounded on Christ’s teachings on humanism. Within this connection, it aims to help students to appreciate human dignity existing in an individual based on the studies of human history and development; the uniqueness of characteristics of human life and behaviors (i.e., consciousness, freedom, morality, socialization, etc.).						
到達目標	By the end of the semester, students will be able to explain how a human individual exists in the context of human history and evolution; and describe the uniqueness of human characteristics and behaviors in general.						
評価方法	Class participation (30%), Class assignments (20%), Formative assessment (15%), Mid-term exam (20%), Summative assessment (15%)						
評価基準	Class participation (regularly-actively attending classes, a daily quiz of knowledge gained from the previous lesson, individual idea contributions and asking questions, and group discussions); Class assignments (short reports, film critiques, reading assignments, homework, and self-studies); Formative assessment (a short test held by two weeks prior to the Mid-term to evaluate students’ in-progress learning); Summative assessment (a long written test held near the end of semester to assess students’ overall comprehension of the course content matters); and Mid-term exam (a major written exam: objective and subjective types).						
準備学修 の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Introduction: Review of Basic Concepts Related	PPP-presentation, lecture, discussion	Course Orientation
2	Life Existence & Evolution Theory	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Human Origins set 1
3	Scientific Search for Human Origins (Introduction to how to do self-studies)	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Human Origins set 2
4	Characteristics of Human Behaviors	Self-studies and reports	Guideline for self-studies Research in the library
5	Development of Human Characteristics and Psychological Traits	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Early Human Behaviors and psychological traits
6	Development of Human Mind; Formative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Evaluating students’ in-progress learning	Handout for reading: Human mind; Questionnaires for formative assessment

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	Stages of Development of Consciousness Returning the Formative Assessment and going over results	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Development of Consciousness
8	Introduction to Moral Development; Mid-term Exam	Film show; Written exam	Handout for reading: Stages of Moral Development; Discussion on the films; Objective and subjective tests
9	Moral Development Theory Returning the Mid-term Exam and going over results	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Moral Development Theory
10	Moral Issues—Case studies	Individual and group discussion	Case studies of some Moral issues for an individual analysis and reports, and for group work prepared for an in-class report and discussion
11	Human Freedom and Free Will	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Human Freedom
12	Socialization: Maturity and Eros	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Personality Theory
13	Current Issues: Globally and Locally Summative Assessment	A short film show, discussion Assessing students' overall comprehension of the course content matters	Film shows based on “Selective Issues” for in-class discuss and for an individual critics
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	Course review and Conclusion Returning the Summative Assessment and going over results	PPP-presentation of course review, lecture and discussion	Wrapping-up materials from some crucial questions; Discussion on Summative Assessment and going over its results as a course conclusion

テキスト	Articles taken from various sources will be given to students according to the topics related in a form of class handouts which are selected, edited and / or written by the teacher of this course.
履修条件、前提科目	TOEIC score: 400 or above
その他特記事項	14回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。

科目名	SCH101:　人間学Ⅱ					担当教員	小林　宏子
開講期	秋	開講時限	水 1 限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	人格、主体性、人間の尊厳、自由と責任、選択による成長、信仰と祈り、愛、キリスト教
授業の概要	人間学 I に引き続き、「他者のために、他者とともに」という生き方の基礎となるキリスト教人間観の諸相を学ぶ。テキスト講読と社会に起こる様々な現象の考察を通して「人格的存在として主体的に生きることはどのような姿勢と態度で物事とかかわることを意味するのか」について学ぶ。
達成目標	キリスト教人間観における人間の可能性の高みと深みを理解し、各自が備える人間としての尊厳と人格形成に対する自由と責任の意味を理解できるようになる。さまざまな選択の前に立たされる人間の葛藤を理解した上で、「他者のために、他者とともに」という生き方を自分の課題として意識し、実践に向けて準備することができる。
到達目標	①テキスト講読を通してキリスト教人間観における人格性の特徴を表すキーワードの意味内容を理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②「各人固有の存在意義」について考察し、自他の存在を肯定的に受容することの大切さを理解し、表現できる。 ③世界で起こる事柄を「他者と共に生きること」に伴う自己の課題として受け止め「他者のために」という姿勢で応答することの意義を理解し、考察した内容を論理的に表現できる。
評価方法	①毎回の事前課題の提出（15%）と、授業毎のリアクションペーパー（15%） ②グループ活動（15%） ③中間課題（1,000～1,200 字の小レポート）（20%）、 ④期末課題（1,500～1,800 字の小論文）（30%）と発表（5%）
評価基準	①毎回の事前課題の提出：指定されたテキスト箇所を読み、コメントシートを提出する。 授業毎のリアクションペーパー：授業内容を踏まえた上での、自分の問題意識や意見を分かりやすく記述できる。 ②グループ活動：司会や記録、発表の役割を担いグループ内の意見交換を活発に進め、話し合いの内容を深める事に貢献する。 ③中間課題：参考書①を読み、授業での学びと関連付けて、「キリスト教人間観の特徴」を要約し、それらに対する、自分の考えを分かりやすく説明できる。 ④期末課題：参考書②を読み、授業での学びと関連付けて、「現代社会の中にあって『他者のために、他者とともに』という生き方が今の自分にもたらす課題は何か」について、参考書著者の言葉と自分自身の言葉を明確に区別しながら考察した結果を分かりやすく論述でき、しかも、それを簡潔な形にまとめて発表できること。
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	講義概要の説明 キリスト教人間観の 7 つの命題	講義、質疑応答、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト①pp.12～23 を読み、要約する。
2	人格化のプロセスとしての成長 人間らしさとは何か	講義、DVD 視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.24～56、112～116 のコメントシート準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	人格性の特徴（1） 独自性、一回性、連続性	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.235～247 のコメントシート準備
4	人格性の特徴（2） 有限性、中間性	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.248～264 のコメントシート準備
5	人格としての生き方と接し方（1） 主体性を持って生きる	講義、DVD 視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.56～78 のコメントシート準備
6	人格としての生き方と接し方（2） 意味を与えて生きる	講義、DVD 視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.78～111 のコメントシート準備
7	人間理解について 自分を知ること、受け容れること	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.117～142 のコメントシート準備、中間課題の提出
8	他人を理解すること 聖所をもって生きる	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.142～158 のコメントシート準備
9	愛について 好きと異なる愛	講義、DVD 視聴、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.159～199 のコメントシート準備
10	人間の尊さ なぜ人間は尊いのか	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.200～234 のコメントシート準備
11	精神衛生と成熟 欠乏欲求と自己実現欲求	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.265～303 のコメントシート準備
12	自我の防衛機制と成熟した人格の特徴	講義、グループ活動、リアクションペーパー	テキスト pp.303～324 のコメントシート準備
13	「他者のために、他者とともに」という生き方がもたらす課題	学生の発表、講評	期末課題の提出、発表準備
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	人間学 II のまとめ 期末課題の講評	学生の発表、講評、グループ活動、	「人間学 II で学んだこと」の発表準備

テキスト	①渡部和子『「ひと」として大切なこと』（PHP 文庫） ②上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	①渡辺和子『愛をこめて生きる』（PHP 文庫） ②来住英俊『キリスト教は役に立つか』（新潮選書）
その他特記事項	キリスト教信仰に関心があり、人間学 I での学びを更に深めたいという意欲のある学生の履修を望む。

科目名	SCH101: 人間学Ⅱ（S）					担当教員	W. Nampet
開講期	秋	開講時限	水２限	研究室	4号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要	学修成果獲得の観点
	1, 2, 3	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。	1-①, 2-①, 3-④

キーワード	Nature, Societies, Nation, Culture, Family, Social Obligation, Religion, Religious beliefs and Faith
授業の概要	The course primarily focuses on perspectives of human relationships within nature and societies. Specially, it deals with both personal and collective relationships within the family, other persons, communities, the nation and the natural environments with ethical and intellectual awareness, obligations and responsibilities. Some complex issues and deeper perspectives such as life and death, faith, belief, and religion will be also introduced with regard to human life and dignity. This course also introduces a basic principle of how to conduct a research in social sciences. Thus, students by pair are required to conduct research field work: practice of data collection twice.
達成目標	In connection with the course Philosophical Anthropology I, it aims to help students to gain their better understanding and appreciation of not only human growth and relationships existing in natural environment, the nation, cultural societies and family; but also deeper perspectives on human life (i.e., life and death, faith and religion); and to apply their understanding as such in contemporary issues and problems with regard to human life and relationships as such.
到達目標	By the end of the semester, students will be able to describe the main aspects of human relations to the family, the society, the nation, the natural environments, and the global community; and to discuss particular deeper dimensions of human life and death, faith and religions; and contemporarily social problems and issues concerning such human relationships and dignity.
評価方法	Class participation (30%), Class assignments (20%), Formative assessment (15%), Mid-term exam (20%), Summative assessment (15%)
評価基準	Class participation (regularly-actively attending classes, a daily quiz of knowledge gained from the previous lesson, individual idea contributions and asking questions, and group discussions); Class assignments (short reports, research field works, film critiques, reading assignments, homework, and self-studies); Formative assessment (a short test held two weeks prior to the Mid-term to evaluate students' in-progress learning); Summative assessment (a long written test held near the end of semester to assess students' overall comprehension of the course content matters); and Mid-term exam (a major written exam: objective and subjective types).
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Orientation: Introduction to the course	PPP-presentation: lecture	Course Orientations
2	Eco-relationships: Relation to Nature: Oriental perspectives (Introduction to Research I: What is research?)	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Oriental Perspectives on Nature
3	Eco-relationships: Relation to Nature: Western perspectives (Introduction to Research II: How to do qualitative research)	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Western Perspectives on Nature
4	Inter- & Intra-relationships: Relation to Other Persons: What are Human relationships? (Introduction to Research III: Doing field work)	PPP-presentation, lecture, film show, discussion	Handout for reading: Social Context of Human Development & Relationships

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	Practice: Data Collection Field Work Research I	Guideline of Data Collection I	Field Work Research I
6	Inter- & Intra-relationships: Relation to Other Persons: Man and Family, Peers & Colleagues, etc. Formative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Evaluating students' in-progress learning	Handout for reading: Socialization; Questionnaires for formative assessment
7	Inter- & Intra-relationships: Relation to Other Person: Maturity & Love Returning the Formative Assessment and going over results	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Maturity for Affection and Love
8	Practice: Data Analysis Field Work Research II	Questionnaires; Guideline for Interview	Field Work Research II
9	Mid-term exam Research Results & Reports	Written examination; Students' presentations of fieldwork	Objective and subjective tests
10	Endo- & Exo-relationships: Introduction to Japanese Culture & Society Returning the Mid-term Exam and going over results	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Japanese culture Set 1
11	Endo- & Exo-relationships: Japanese culture: Its Roots and Influences	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Japanese culture Set 2
12	Endo- & Exo-relationships: Relation to Society: Man and Modern Worldview	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Man and Modern Worldview
13	Inner- & Extra-Relationship: Relation to Deeper Perspectives: Life and death; Beliefs and Faith Summative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Assessing students' overall comprehension of the course content matters	Handout for reading: Life & Death; Beliefs & Faith
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	Course review and Conclusion; Returning the Summative Assessment and going over results	PPP-presentation of course review, lecture and discussion	Wrapping-up materials from some crucial questions; Discussion on Summative Assessment and going over its results as a course conclusion

テキスト	Articles taken from various sources will be given to students according to the topics related in a form of class handouts which are selected, edited and / or written by the teacher of this course.
履修条件、前提科目	TOEIC score: 400 or above
その他特記事項	In addition to 14 weeks of class lectures, each student will be trained how to do actual data collection of research fieldwork twice.

科目名	HST200:　歴史学					担当教員	森下　園
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	歴史学の歴史、近代歴史学の成立、史料論、歴史理論、国際歴史認識問題、歴史教育						
授業の概要	学問としての「歴史学」が近代にどのように成立したのか、「歴史学」をめぐりどんな疑問が提示され、どんな議論がなされてきたのかを学ぶ。特に「唯一絶対の歴史」にひそむ西欧中心主義と、近代国家のための「物語」として創出された「他者を排除する歴史」の問題について考えていく。「世界史」の講義ではないので、注意すること。						
達成目標	受講生が歴史学とはどのような学問であり、どのように成立したのかを理解した上で、歴史認識をめぐる議論や歴史教育について、専門用語・学問的な概念を用いて各自の見解を積極的に述べ、記述できるようにすることが目標である。						
到達目標	①次回授業プリントや参考資料を読み、事典・参考書で調べることで用語を理解し、講義後の課題で授業の要約や質問を記入することで、各回のポイントを把握できるようになる。 ②授業内発言により、自分の言葉で理解した内容を述べることができる。 ③レポートを書くことで、専門用語・学問的な概念を用いて各自の見解を記述できるようになる。						
評価方法	①授業課題：次の授業開始時までにLOYOLAで提出、2%×24回=48% ②授業内での発言：教員の質問への答えなど、初回と最終回を除く、1%×26回＝26% ③レポート：LOYOLAで提出、26%						
評価基準	①授業課題：要点を整理して自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているかを評価する。欠席した回の授業課題は提出しても採点対象とはしない。 ②授業中の発言：教員の問いに答えるだけでなく、意見・質問も評価する。 ③レポート：授業内容を理解したうえで自分の言葉で論述しているかを評価する。 ①と③では、研究倫理を守らない場合は0点となる。						
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。						

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	講義の概要説明、歴史学の諸問題について、研究倫理について	講義、質疑応答	1回授業内容の復習 2回授業プリントの予習
2	歴史学の歴史（1）古代・中世ヨーロッパ	講義、質疑応答	2回授業課題の提出（1） 3回授業プリントの予習
3	歴史学の歴史（2）ルネッサンスから啓蒙時代	講義、質疑応答	3回授業課題の提出（2） 4回授業プリントの予習
4	歴史学の歴史（3）中国と日本	講義、質疑応答	4回授業課題の提出（3） 5回授業プリントの予習
5	歴史学の歴史（4）ランケ史学　－近代歴史学の登場	講義、質疑応答	5回授業課題の提出（4） 6回授業プリントの予習
6	歴史学の歴史（5）アナール派　－「民衆」の歴史	講義、質疑応答	6回授業課題の提出（5） 7回授業プリントの予習
7	歴史学の歴史（6）歴史学の作法　－史料批判と先行研究	講義、質疑応答	7回授業課題の提出（6） 8回授業プリントの予習
8	史料を読むために（1）古書体学、古書冊学、文書形式学	講義、質疑応答	8回授業課題の提出（7） 9回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	史料を読むために（2）暦について	講義、質疑応答	9回授業課題の提出（8） 10回授業プリントの予習
10	史料を読むために（3）図像解釈学と絵画資料	講義、質疑応答	10回授業課題の提出（9） 11回授業プリントの予習
11	史料を読むために（4）考古学と文化人類学	講義、質疑応答	11回授業課題の提出（10） 12回授業プリントの予習
12	史料を読むために（5）オーラルヒストリー	講義、質疑応答	12回授業課題の提出（11） 13回授業プリントの予習
13	研究紹介　マルク・ブロック『王の奇跡』	講義、質疑応答	13回授業課題の提出（12） 14回授業プリントの予習
14	理論（1）西欧哲学の世界観	講義、質疑応答	14回授業課題の提出（13） 15回授業プリントの予習
15	理論（2）構造主義とポスト構造主義	講義、質疑応答	15回授業課題の提出（14） 16回授業プリントの予習
16	理論（3）言語論的転回と歴史学	講義、質疑応答	16回授業課題の提出（15） 17回授業プリントの予習
17	理論（4）文学とポストコロニアリズム	講義、質疑応答	17回授業課題の提出（16） 18回授業プリントの予習
18	理論（5）歴史修正主義と社会構築主義	講義、質疑応答	18回授業課題の提出（17） 19回授業プリントの予習
19	理論（6）ジェンダーと歴史学	講義、質疑応答	19回授業課題の提出（18） 20回授業プリントの予習
20	歴史とメディア（1）　写本からマス・メディアの登場まで	講義、質疑応答	20回授業課題の提出（19） 21回授業プリントの予習
21	歴史とメディア（2）　現代メディアの問題点	講義、質疑応答	21回授業課題の提出（20） 22回授業プリントの予習
22	歴史教育（1）国際歴史教科書問題　－ヨーロッパ	講義、質疑応答	22回授業課題の提出（21） 23回授業プリントの予習
23	歴史教育（2）国際歴史教科書問題　－日本と韓国	講義、質疑応答	23回授業課題の提出（22） 24回授業プリントの予習
24	歴史教育（3）英国の歴史教育	講義、質疑応答	24回授業課題の提出（23） 25回授業プリントの予習
25	研究紹介　網野善彦『異形の王権』	講義、質疑応答	レポートの準備
26	まとめ、震災と歴史 （レポートを定期試験期間に提出）	講義、質疑応答	レポートの準備 27回プリントの予習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	研究紹介　ミッシェル・フーコー『監獄の歴史』『狂気の歴史』	講義、質疑応答	27回授業課題の提出（24） 28回授業プリントの予習
28	歴史学の諸問題 レポートの返却と講評	講義、質疑応答	授業の振り返り

テキスト	なし。授業内容に関するプリントをLoyola授業掲示板で配付するので、各自が授業前に印刷して持ってくること。
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史学』（岩波書店）

科目名	PHL200:　哲学					担当教員	丹木　博一
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	世界の現れ、存在と無、時間、身体、言語、自己と他者、世界に対する態度
授業の概要	世界が私に現れ、その世界のうちに私が他者と共に住まい、自由に行為するということの謎を、認識論、存在論、行為論、他者論などさまざまな視点から哲学的に考察する。主要な哲学者の言葉をていねいに読み解きながら、代表的な哲学的問いに親しみ、ディスカッションを通して互いに考えを鍛え上げていく。
達成目標	何気ない日々の営みの中にさまざまな哲学的な謎が潜んでいるということに気づき、その謎の成り立ちを西洋哲学の歴史に照らして考え進めることができる。
到達目標	・西洋哲学史を彩る大哲学者たちの思想の基本を理解し、それを表現できる。 ・哲学的問いの重要性を自覚し、自ら問いを提起することができる。 ・自分が立てた問いについて論理的に筋道を立てて考察を進めることができる。
評価方法	授業毎の課題（14%)、授業毎のリアクションペーパー（14%)、中間レポート（2,000字以上）(30%)、定期試験（42%)
評価基準	授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。 リアクションペーパー：講義内容を正しく理解し、問題関心を明記できるかどうか。 中間レポート：哲学的問いを提起し、自分の言葉で論理的に論述展開できるかどうか。 定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。27% (i) 選択式の問題を課す。教科書及び授業内容の理解が正しいかどうか。22% (ii) 700～800字の小論文を作成してもらう。哲学的な問いを一つ提起し、その問いについて自分の力で考えたことを自分の言葉で展開する。問いが哲学的であり、考察に説得力があるかどうか。20%
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	哲学とは何か 哲学と科学の違い	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	教科書①と②のまえがきを読み、要約を提出。
2	世界の現れに潜む謎（1) タレスの「水」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.1-14をていねいに読み、要約を提出。
3	世界の現れに潜む謎（2) ヘラクレイトスの「火」	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.15-28をていねいに読み、要約を提出。
4	世界の現れに潜む謎（3) パルメニデスの「存在」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.29-42をていねいに読み、要約を提出。
5	生成変化をめぐる謎（1) エンペドクレスの「四大」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.43-56をていねいに読み、要約を提出。
6	自由はいかにして可能か（1) ソクラテスの「無知の知」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.58-76をていねいに読み、要約を提出。
7	存在の根拠はどこにあるのか（1) プラトンの「イデア」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.77-96をていねいに読み、要約を提出。
8	生成変化をめぐる謎（2) アリストテレスの「可能態・現実態」	講義・絵本朗読 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.97-108をていねいに読み、要約を提出。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	自由はいかにして可能か（2） アリストテレスの「エートス」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.108-116をていねいに読み、要約を提出。
10	自由はいかにして可能か（3） ストア派の「アパテイア」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.117-132をていねいに読み、要約を提出。
11	存在の根拠はどこにあるか?（2） プロティノスの「一者」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.149-164をていねいに読み、要約を提出。
12	生成変化をめぐる謎（3） アウグスティヌスの「現在」	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.165-184をていねいに読み、要約を提出。
13	存在の根拠はどこにあるのか?（3） ボエティウスの「創造」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.185-200をていねいに読み、要約を提出。
14	存在とその根拠の関係は?（1） 偽ディオニシオスの「否定神学」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.201-216をていねいに読み、要約を提出。
15	存在とその根拠の関係は?（2） トマスの「存在の類比」と「分有」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.217-236をていねいに読み、要約を提出。
16	存在とその根拠の関係は?（3） スコトゥス「存在の一義性」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.237-254をていねいに読み、要約を提出。
17	私と世界はいかに関係しているか?（1） デカルトの「コギト」	講義・絵本朗読 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.1-20をていねいに読み、要約を提出。 中間レポート提出
18	私と世界はいかに関係しているか?（2） スピノザの「様態」	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.21-38をていねいに読み、要約を提出。
19	私と世界はいかに関係しているか?（3） ロックの「タブラ・ラサ」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.39-56をていねいに読み、要約を提出。
20	私と世界はいかに関係しているか?（4） ライプニッツの「モナド」	講義・写真鑑賞 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.57-74をていねいに読み、要約を提出。
21	私と世界は?（5）＋生成消滅の謎（4） ヒュームの「知覚の束」と「習慣」	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.91-106をていねいに読み、要約を提出。
22	生成消滅をめぐる謎（5） カントの「因果性のカテゴリー」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.123-133をていねいに読み、要約を提出。
23	私と世界はいかに関係しているか?（6） カントの「統覚」と「理念」	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.143-158をていねいに読み、要約を提出。
24	自由はいかにして可能か?（4） ヘーゲルの「相互承認」	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.159-176をていねいに読み、要約を提出。
25	自由はいかにして可能か?（5） マルクスとニーチェの「宗教批判」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.177-192をていねいに読み、要約を提出。
26	自由はいかにして可能か?（6） ベルクソンの「表現」	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.209-224をていねいに読み、要約を提出。
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
27	まとめ1 哲学的な問いを発すること	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	共感した哲学者の名を挙げ、理由を書いて提出。
28	まとめ2 定期試験返却＋フィードバック	講義・ディスカッション リアクションペーパー	自分にとって重要な哲学的問いを書き、提出。

テキスト	①熊野純彦『西洋哲学史―古代から中世へ』（岩波新書） ②熊野純彦『西洋哲学史―近代から現代へ』（岩波新書）
参考書	野矢茂樹編『子どもの難問―哲学者の先生、教えてください！』（中央公論新社） 立正大学文学部哲学科編『哲学 はじめの一歩』（春風社）
その他特記事項	主体的な関心をもって授業に臨んで欲しい。分からない点や疑問点がある場合は、遠慮なく質問すること。

科目名	PHL200:　哲学					担当教員	上田　圭委子
開講期	秋	開講時限	火金３限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	存在、自然、ロゴス、真理、神、意識、経験、生命、時間
授業の概要	・西洋哲学の流れを、古代・中世・近代の偉大な哲学者たちの言葉に直接に触れながら学び、それを通して、基礎的な哲学上の概念についても理解を深めてゆく。 ・毎回、主題に関係する哲学の問いを一つ取り上げ、グループで議論する時間をとる。
達成目標	・偉大な過去の哲学者のテキストとの対話を通して、これまで自明だと思っていた事柄が、必ずしも自明ではなかったことを発見し、日常を見る新たな視点を獲得することができる。 ・さまざまなことを、自分なりにゼロから考えてみることの楽しさを味わう。
到達目標	・西洋哲学の歴史と基本概念を理解し、教養ある国際人として、自信をもって世界中の人々と対話するための基礎が身につく。 ・自らの考えを、筋道立てて、明確に表現できるようになる。 ・哲学的な文章や、他者の考えを、その論理を汲み取りながら深く理解することができる。
評価方法	・授業時の積極的な参加と毎回のリアクションペーパーの提出（40%）、中間レポート（1,200字以上）（20%）、期末レポート（2,000字以上）（40%）
評価基準	・授業内容を正確に受け止め、自分なりに考え、それを授業中の発言、質問、およびリアクションペーパーを通して表現できているか。 ・中間レポート：哲学に関する一次文献もしくはそれに準ずる内容を持つ書物の中からまとまった箇所を読み、その内容を適切に要約できているか。 ・期末レポート：哲学に関係のあるテーマを一つ取り上げ、それについて、さまざまな意見のありうることを考慮しつつ、自分なりの考えを説得力を持って展開できているか。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	古代ギリシアにおける哲学の始まり① タレス、アナクシマンドロスの思想	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料①の復習
2	古代ギリシアにおける哲学の始まり② ピタゴラスとその学派、ヘラクレイトス	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料②の復習
3	ほんとうに「ある」とはどういうことなのか―パルメニデスの断片を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料③の復習
4	「空虚」もまた「ある」のか―エンペドクレス、アナクサゴラス、デモクリトスの思想	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料④の復習
5	無知の知―プラトン『ソクラテスの弁明』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑤の復習
6	善のイデアとは何か―プラトン『国家』の三つの比喩を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑥の復習
7	世界も私の魂も存在し、動いている―アリストテレスの存在論・自然論・霊魂論	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑦の復習
8	善とは何か、友情とは何か―アリストテレス『ニコマコス倫理学』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑧の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	ストア派の哲学―エピクテトス『提要』とマルクス・アウレリウス『自省録』を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑨の復習
10	新プラトン主義―プロティノス『善なるもの一なるもの』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑩の復習
11	神と魂を知りたい―アウグスティヌス『ソリロキア』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑪の復習
12	牢獄の中でも自由な精神の飛翔―ボエティウス『哲学の慰め』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑫の復習、中間レポートの構想を練る
13	知解を求める信仰―アンセルムス『プロスロギオン』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑬の復習、中間レポートのための文献探し
14	「神はすべての事物のうちに存在するか」―トマス・アクィナス『神学大全』1部8問	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑭の復習、中間レポートの作成
15	14 世紀の中世神秘思想―エックハルトの説教を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑮の復習、中間レポートの仕上げ
16	疑っている私の存在は疑えない、だから私は「ある」―デカルト『哲学原理』の抜粋	講義、中間レポートの提出、グループ討議	配布資料⑯の復習
17	すべては神のうちにある―スピノザ『エチカ』の抜粋を読む	講義、プレゼンテーションと質疑	配布資料⑰の復習、返却された中間レポートの講評確認
18	イギリス経験論―ロック『人間知性論』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑱の復習
19	モナド論―ライプニッツ『モナドロジー』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑲の復習
20	「存在しているとは、知覚されていることである」―バークリーの『人知原理論』	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料⑳の復習
21	原因と結果の関係はどこに見いだせるのかヒューム『人性論』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料㉑の復習
22	人間が知りうること、知りえないこと―カント『純粋理性批判』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料㉒の復習
23	道徳法則に従って行為する自由―カント『実践理性批判』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料㉓の復習、期末レポートの構想
24	美しいもの、崇高なものとのかかわり―カント『判断力批判』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料㉔の復習、期末レポートの作成準備
25	知性の未成年状態からの脱却－カント『啓蒙とは何か』を読む	講義、リアクションペーパー、グループ討議	配布資料㉕の復習、期末レポートの作成
26	平和はいかにしてもたらされるべきか―カント『永遠平和のために』を読む	講義、グループ討議、期末レポートの提出	配布資料㉖の復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	かけがえのない私の存在と時間―ハイデガー『存在と時間』の抜粋を読む	講義、プレゼンテーションと質疑応答	配布資料㉗復習、返却されたレポートの講評の確認
28	まとめ	講義、プレゼンテーションと質疑応答	全体の内容の振り返り

テキスト	クラウス・リーゼンフーバー『西洋古代中世哲学史』（平凡社ライブラリー） 毎回、資料（テーマに応じた哲学の一次文献のコピー）を配布します。
参考書	杖下隆英・増永洋三・渡邊二郎編『テキストブック　西洋哲学史』（有斐閣ブックス） 熊野純彦『西洋哲学史―古代から中世へ』（岩波新書）

科目名	PHL202:　女性と哲学					担当教員	上田　圭委子
開講期	春	開講時限	火金２限	研究室	４号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2 年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	愛、美、真理、神、労働、教育、女性、戦争責任、全体主義、暴力
授業の概要	この授業では、20 世紀に活躍した 3 人の女性哲学者の著作を読みながら、彼女たちが提起した現代社会のさまざまな問題について哲学的に考えます。その際には、彼女たちの著作のなかに出てくる哲学の用語や概念についても、ひとつひとつ、その意味を解説しながら進めます。毎回、授業の後半に現代の哲学的な問題についてグループで議論する時間を取ります。
達成目標	・20 世紀を生きた 3 人の女性哲学者の著作を読み、議論することを通して、現代社会の問題を根本から、哲学的に考える時間をもつことができる。 ・基本的な哲学の用語や概念を習得することで、将来にわたって哲学的な書物をひとりで読み、自分なりに考えることができる基礎的な教養と学力を身につけることができる。
到達目標	・シモーヌ・ヴェイユの思想とその著作についての知識を得るとともに、彼女の著作と対話しながらさまざまな現代の問題について自分なりに考察し表現することができる。 ・ハンナ・アーレントの思想とその著作についての知識を得るとともに、彼女が提起した現代社会の問題について自分自身はどのように考えるのかを表現することができる。 ・エディト・シュタインの著作の抜粋を読み、その思想を理解することができる。
評価方法	授業時の積極的参加とリアクションペーパー　40%、中間レポート（1,200 字）20%、期末レポート（2,000 字）40%
評価基準	・毎回の授業への積極的参加と、毎回のリアクションペーパーの提出ができているか。 ・中間レポートにおいて、興味のある女性思想家・哲学者についてその生涯と著作・思想について適切に紹介できているか。 ・期末レポートにおいて、自分自身の関心のあるテーマを選び、授業で学んだ内容を生かしながら論理的に考察を展開することができているか。
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ①ヴェイユの生涯と思想の概説	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
2	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ②魂が感じる下への力としての重力	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
3	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ③真空とそれを満たす恩寵	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
4	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ④執着を断つということ	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
5	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑤過去及び未来とのかかわり	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
6	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑥自我について	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
7	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑦神の愛と創造	講義、グループ討議、リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑧わたしが消えさることへの願望	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
9	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑨必然を愛すること	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
10	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑩愛について考える	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習、 中間レポートの構想
11	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑪悪について考える	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストの復習、中間レポートの作成準備
12	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑫不幸と戦争による暴力について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習、 中間レポートの作成
13	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑬宇宙の意味について	中間レポートの提出	テキストと配布資料の復習
14	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑭美について	中間レポートの返却	テキストと配布資料の復習
15	シモーヌ・ヴェイユ『重力と恩寵』を読む ⑮労働の神秘について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	テキストと配布資料の復習
16	ハンナ・アレントの思想①『アウグスティヌスの愛の概念』の抜粋を読む	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
17	ハンナ・アレンとの思想②『エルサレムのアイヒマン』と悪の凡庸さについて	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
18	ハンナ・アレントの思想③『全体主義の起源』の抜粋を読む	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
19	ハンナ・アレントの思想④『人間の条件（活動的生）』の抜粋を読む	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
20	ハンナ・アレントの思想⑤『精神の生活』の抜粋を読む	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
21	エディット・シュタインの思想①フッサールとの出会いと「現象学とはなにか」	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
22	エディット・シュタインの思想②「感情移入の問題」から共同体、国家の研究へ	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習、期末レポートの構想
23	エディット・シュタインの思想③女性についての教育論・職業論・女性の使命論	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習、期末レポートの作成準備
24	エディット・シュタインの思想④スコラ学との出会いと「現実態と可能態」	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習、期末レポートの作成準備
25	エディット・シュタインの思想⑤トマス『真理論』の翻訳と真理論の内容について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習、期末レポートの作成
26	エディット・シュタインの思想⑥主著『有限なる存在と永遠なる存在』について	期末レポートの提出、 講義、グループ討議	配布資料の復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	エディット・シュタインの思想⑦カルメル会への入会と『十字架の学問』について	講義、グループ討議、 リアクションペーパー	配布資料の復習
28	まとめと質疑応答	期末レポートの返却と講評、講義、質疑応答	期末レポートの講評の確認

テキスト	シモーヌ・ヴェイユ（富原真弓訳）『重力と恩寵』（岩波文庫） 16回以降は毎回、授業で読む文献もコピーで配布します。
参考書	須沢かおり『エディット・シュタイン　愛と真理の炎』（新世社） シルヴィ・クルティーヌ＝ドゥナミ『暗い時代の三人の女性』（晃洋書房）

科目名	REL200:　宗教学					担当教員	小林　宏子
開講期	春／秋	開講時限	月木3限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	1-①, 2-①

キーワード	キリスト教、聖書、契約、創造、神の似姿、自由、掟と律法、罪と赦し、隣人愛、救い
授業の概要	聖書を創世記から福音書まで概観し、キリスト教における救いの概念を理解するために不可欠となる用語の意味とその背景を学ぶ。聖書に登場する代表的人物を取り上げ、聖書が描く人間の本質的な弱さと、その人間とかかわり続ける神の愛を考察する。キリスト教が説く「救い」への希望の根拠を、イエスの言葉と行いに関する学びを通して理解する。
達成目標	キリスト教文化圏において常識的に使われる用語の中から聖書に起源を持つ語句に関して、一般的理解と聖書本来の意味の違いを学び、キリスト教を理解するための基本的知識を持つことができる。聖書に示されたイスラエル民族の歴史をサンプルとすることで自分が所属する文化を相対化した上で、救いに関する自身の宗教観を見直し、考察の結果を論述できる。
到達目標	①聖書やキリスト教に特徴的な用語の意味と内容を理解することができる。 ②聖書の言葉を字面だけでなくその成立過程や歴史的・文化的背景を含めて理解することで自分自身の人格形成に役立てる視点を身につけることができる。 ③キリスト教が説く「救い」の意味について聖書に典拠を求めながら論述することができ、更に、自分の意見を論理的に述べることができる。
評価方法	①用語テスト（14%） ②事前課題の提出（27%）とリアクションペーパー（14%） ③授業内中間試験（20%） ④定期試験（25%）
評価基準	①聖書で用いられる用語の意味を理解していること ②課題の箇所を読み、自分自身及び社会の現実と関連付けたコメントを準備すること。更に授業の解説や意見交換を通して新たに学んだ事柄を、分かりやすく記述できていること。 ③18回までの授業で取り上げた旧約聖書の思想を正しく理解していること。 ④19回以降の授業内容を正しく理解していること。及び「キリスト教が説く救いは現代社会においてどのような意味を持つのか」について700～800字の小論文を書けること。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	講義の概要説明と旧約聖書の基礎知識	講義、意見交換、リアクションペーパー	配布プリントの復習
2	創世記1章　天地創造と人間の召命	聖書講読、用語テスト	創世記1章を読みコメントシートを準備する
3	創世記2章　人間の創造	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	創世記2章を読みコメントシートを準備する
4	創世記3章　禁断の実と人間の罪	聖書講読、用語テスト	創世記3章を読みコメントシートを準備する
5	創世記4章　カインとアベルの物語	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	創世記4章を読みコメントシートを準備する
6	創世記6-9章　ノアの洪水物語	聖書講読、用語テスト	創世記6-9章を読みコメントシートを準備する
7	創世記11章　バベルの塔の物語	聖書講読、DVD視聴、リアクションペーパー	創世記11章を読みコメントシートを準備する
8	創世記12章　アブラムの召命	聖書講読、用語テスト	創世記12章を読みコメントシートを準備する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	創世記 15、17 章　契約の思想	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	創世記 15 章、17 章を読みコメントシートを準備する
10	創世記 18、21 章　信仰の試練	聖書講読、DVD 視聴、用語テスト	創世記 18 章、21 章を読みコメントシートを準備する
11	出エジプト記 1-3 章　モーセの召命	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	出エジプト記 1-3 章を読みコメントシートを準備する
12	出エジプト記 12 章　過越祭	聖書講読、用語テスト	出エジプト記 12, 24 章を読みコメントシートを準備する
13	出エジプト記 20 章　十戒	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	出エジプト記 20 章を読みコメントシートを準備する
14	サムエル記 8 章　士師記 9 章 士師と王の使命	聖書講読、用語テスト	サムエル記 8 章を読みコメントシートを準備する
15	列王記上 21 章　土地の意味と王の権力	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	列王記上 21 章を読みコメントシートを準備する
16	アモス 8 章　預言者の社会批判	聖書講読、用語テスト	アモス書 8 章を読みコメントシートを準備する
17	イザヤ書 52 章 13 節-53 章 バビロン捕囚と預言者の苦しみ	聖書講読、DVD 視聴、リアクションペーパー	イザヤ書 52:13-53 を読みコメントシートを準備する
18	エルサレムへの帰還 メシアニズムの成長	聖書講読、用語テスト	イザヤ 9 章、11 章を読みコメントシートを準備する
19	新約聖書、イエスが活躍した社会 授業内中間試験	授業内中間試験、聖書講読、意見交換	マルコ 1 章を読みコメントシートを準備する
20	ユダヤ教の宗派、神の国の宣教	聖書講読、用語テスト	マタイ 20:1-16、ルカ 18:9-14 のコメントシートを準備する
21	奇跡物語、罪の赦し 中間試験に対するコメント	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	マタイ 8:23-9:13 を読みコメントシートを準備する
22	慈しみ深い神、放蕩息子のたとえ 主の祈り	聖書講読、用語テスト	ルカ 15:1-32、マタイ 6:1-15 のコメントシートを準備する
23	山上の説教	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	マタイ 5 章、6:25-34、7:1-12 のコメントシート準備
24	隣人愛の掟、善きサマリア人のたとえ	聖書講読、用語テスト	マタイ 19:16-30、ルカ 10:25-37 のコメントシートを準備する
25	最後の晩餐、イエスの受難と死	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	マタイ 26-28 章、ルカ 23 章、ヨハネ 13 章のコメントシートを準備する
26	復活から見た十字架死の意味	聖書講読、用語テスト	ヨハネ 20 章、ルカ 24:13-53 のコメントシートを準備する
	定期試験を実施する Final Exam will be held		
27	キリスト教の成立、三位一体の神	聖書講読、意見交換、リアクションペーパー	使徒言行録 1-2 章を読みコメントシートを準備する
28	聖母マリアについて 定期試験の返却とコメント	聖書講読、意見交換、用語テスト	ルカ 1:26-2:58、ヨハネ 2:1-12 のコメントシートを準備する

テキスト	『聖書・新共同訳』（日本聖書協会） 百瀬文晃『キリスト教の原点』（教友社）
参考書	雨宮慧『聖書に聞く』（オリエンス宗教研究所） 雨宮慧『旧約聖書（図解雑学）』（ナツメ社）
その他 特記事項	キリスト教や宗教一般に対する真面目な関心を持っていること

科目名	MUS200:　音楽					担当教員	北村　さおり
開講期	秋	開講時限	月木２限	研究室	4 号館 2 階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2 年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	歌唱実技、呼吸、発声、発音、朗読、西洋音楽史、音楽鑑賞、オペラ、リート、合唱
授業の概要	「朗読」「群読」「合唱」を通して、詩人、作曲家、演奏者の多様な解釈を探り、自己表現の方法と、他者との解釈の共有を体験する。西洋音楽史を時代様式や歴史的背景の知識を深めながら学ぶ。授業のまとめや用語を辞書で調べてくるなどの宿題を課する。試験では自筆ノートの持ち込みのみを許可とする。読譜力など専門的な音楽知識は必要としないが、実技や鑑賞への積極的取り組みを求める。
達成目標	中世からロマン派までの音楽史の推移を理解し、芸術について考察する。 詩の朗読と歌曲・合唱演習、また、それらの発表を通し、表現者として、共演者として、聴衆としての価値観の共有体験をめざす。
到達目標	美しい声、姿勢、発音、表情を習得することができる。皆で声を合わせて歌う喜びを知ることができる。音楽史を理解し、作品の解釈を試みることにより、自己と芸術との関わりを考え、自己表現の幅を広げることができる。
評価方法	課題提出 2%×10 回＝20%、授業内試験（2 回）70%、授業への取り組み状況の評価 10%
評価基準	課題提出：授業のまとめができているか、予習課題ができているか評価する。 授業内試験：音楽史の理解度を 2 回の筆記試験で評価する。 授業への取り組み状況の評価：授業内での発言や音読の際に授業で習得したしゃべり方や発声に取り組めているか、鑑賞授業、実技授業に積極的に取り組めているか評価する。
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	講義の概要説明、呼吸法・姿勢のエクササイズ、校歌（斉唱）	講義、実技、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
2	復習、発音・発声のエクササイズ 学生歌「英知の丘に」	講義、実技、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
3	復習、しゃべり方・朗読のエクササイズ、学生歌「緑の丘」	講義、実技、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
4	復習とエクササイズ 学生歌の歌詞解釈、朗読練習	講義、実技、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
5	復習とエクササイズ 朗読練習、歌唱練習	講義、実技、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
6	中世：グレゴリオ聖歌の鑑賞と歌唱 ルネサンス：教会音楽等	講義、鑑賞、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
7	バロック前期：オペラ、器楽曲等	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
8	バロック後期：ヘンデル、バッハ	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
9	古典：ハイドン、モーツアルト	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	古典：ベートーヴェン	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
11	ロマン派：シューベルト	講義、鑑賞、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
12	授業内試験　採点、復習	講義、試験、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
13	ロマン派：シューマン、ショパン、その他	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
14	ロマン派：リスト、ブラームス、ワーグナー、その他	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
15	ロマン派：マーラー、R.シュトラウス、ロマン派以降。音楽史のまとめ。	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
16	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
17	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
18	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
19	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
20	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
21	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
22	オペラ：モーツァルト～ドニゼッティ	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
23	オペラ：ヴェルディ、プッチーニ、その他	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
24	オペラ DVD 鑑賞：ヴェルディ「椿姫」全曲	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
25	オペラ DVD 鑑賞：ヴェルディ「椿姫」全曲	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
26	授業内試験　採点、復習	講義、試験	ノートの整理 予習・復習課題
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	DVD 鑑賞：コンサートや音楽祭など	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
28	総括	講義	ノートの整理

テキスト	楽譜、テキスト、鑑賞資料はプリントを配布する。
参考書	田村和紀夫『CD 付徹底図解 クラシック音楽の世界』（新星出版社） 岡田暁生『西洋音楽史』（放送大学教材）

科目名	SOC200:　社会学					担当教員	田村　公人
開講期	春／秋	開講時限	月木３限	研究室	４号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2 年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	社会学史、古典、ヨーロッパ、アメリカ、領域社会学
授業の概要	この授業では、社会学という学問の学史の展開を追いつつ、基礎となる社会学の考え方を学ぶ。あわせて、領域社会学の動向も取り上げ、学習を積み重ねることを通して、教養としての社会学の理解に資する。
達成目標	1．社会学という学問の特徴について、理解できるようになる。2．社会学の基礎となる考え方を踏まえた、社会現象や社会問題の洞察ができるようになる。
到達目標	1．社会学の基本的な学史について、説明することができる。2．各社会学者の考え方の共通点と相違点を説明することができる。3．社会学という学問が中心的に取り組んできた社会現象や社会問題について、各社会学者の業績を踏まえつつ、自らの考えを示すことができる。
評価方法	1．授業時の積極参加 50%、2．中間レポート 20%、3．最終レポート 30%
評価基準	1．毎回のリアクションの提出など、積極的に授業に参加しているかどうか、2．授業内容を踏まえた中間レポートが提出されているかどうか、3．授業内容を踏まえ、かつ自らの考えが説得的に提示されている最終レポートとなっているかどうか。
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	イントロダクション――高校までの「社会」と社会学の違い	講義、質疑応答	問題意識をもって臨む、講義内容の整理
2	社会学の中心地――ヨーロッパとアメリカ	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
3	社会学の誕生――スミスとコント	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
4	草創期のヨーロッパ社会学――スペンサー	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
5	マルクスの社会学への貢献	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
6	社会学の古典を読む――デュルケームの『自殺論』（学説の概要）	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
7	社会学の古典を読む――デュルケームの『自殺論』（先行業績との関係）	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
8	社会学の古典を読む――デュルケームの『社会分業論』（学説の概要）	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
9	社会学の古典を読む――デュルケームの『社会分業論』（先行業績との関係）	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
10	社会学の古典を読む――ヴェーバーの『プロ倫』（学説の特徴）	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
11	社会学の古典を読む――ヴェーバーの『プロ倫』（先行業績との関係）	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
12	社会学の古典を読む――ヴェーバーの『権力と支配』	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
13	社会学の古典を読む――ジンメルの「大都市の精神生活」	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
14	社会学の古典を読む――ジンメルの『貨幣の哲学』	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読、中間レポートの提出
15	草創期のアメリカ社会学――サムナーとウォード	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
16	アメリカ社会学の展開――シカゴ学派の人種問題への取り組み	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
17	アメリカ社会学の展開――マートン	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
18	アメリカ社会学の展開――パーソンズ	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
19	アメリカ社会学の展開――ミクロ社会学	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
20	中心地の拡散――ヨーロッパの新たな社会学の展開	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
21	日本の社会学――ヨーロッパとアメリカ双方の社会学の受容史	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
22	社会調査論――量的調査と質的調査	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
23	領域社会学――都市社会学	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
24	領域社会学――家族社会学	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
25	領域社会学――文化社会学	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
26	領域社会学――社会階層論	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	社会学の現在	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
28	まとめ―教養としての社会学	講義、質疑応答	全授業内容の復習、最終レポートの提出

テキスト	特に指定しない。必要に応じて、授業内容に関連した論文記事を配布する。
参考書	玉野和志編『ブリッジブック社会学』（信山社）
その他特記事項	授業内で適宜、関連文献を紹介する。参考書とあわせて一読しつつ、主体的に講義に臨んでいただきたい。

科目名	LAW210: 日本国憲法					担当教員	玉巻 弘光
開講期	春	開講時限	月木 1 限	研究室	4 号館 2 階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2 年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

項目	内容
キーワード	憲法　立憲主義　国民主権　基本的人権　自由権　社会権　国会　内閣　裁判所　憲法改正
授業の概要	憲法は国家の基本構造を規定し、基本的人権を保障するために存在するものであり、日常意識することは稀だが、我々の現実の生活のありようを決定づけているものである。 この授業では、近代立憲主義成立の歴史からスタートし、日本国憲法の生い立ち、そしてその基本構造を概観する。それと同時に、現下の社会における様々な憲法問題について、なぜそれが憲法問題となるのかということについて検討する。
達成目標	近現代憲法の基礎理念を理解し、日本国憲法がそこにどのように位置づけられるかを、まず理解する。そのうえで、日本国憲法の基本構造を把握する。 上記を前提として、日々生起する憲法関連社会事象を、日本国憲法の視点から認識できるようになることを目指す。
到達目標	上記達成目標を基盤として、なぜ、現代立憲主義が成立したのか、それが我々の現実の日常生活の保障にどのように役立っているのか、我々の身近な現実社会において生起している諸問題がなぜ憲法問題として意識されなければならないのか、といった点について一定程度の説明ができるようになることを目標とする。
評価方法	毎回のリアクションペーパー（25%）、課題レポート（25%）、定期試験（50%）
評価基準	リアクションペーパー　：　講義内容を踏まえた記述となっているか。 課題レポート　：　課題の趣旨を的確に把握し、それに対応した論述内容となっているか。 定期試験　：　出題の趣旨を的確に把握し、それに対応した解答となっているか。
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	本科目の授業計画についての概観 憲法を学ぶということの意義	講義及び質疑応答	教科書全体を概観する
2	近代市民革命の展開 立憲主義の成立	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 1 章Ⅰについて予習・復習
3	日本国憲法の成立と基本原理 憲法保障　憲法改正	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 1 章ⅡⅢについて予習・復習
4	基本的人権の基礎理念 基本的人権の生成展開	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 9 章Ⅰ、第 8 章ⅠⅡについて予習・復習
5	基本的人権の体系 人権の制約―公共の福祉	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 8 章Ⅱ－4、Ⅲについて予習・復習
6	人権の享有主体―市民・国民・外国人、法人、 人権規定の私人間効力	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 9 章ⅡⅢについて予習・復習
7	個人の尊厳 幸福追求権	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 15 章Ⅰ－1 について予習・復習
8	新しい人権	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 15 章Ⅰ－2 について予習・復習
9	法の下の平等	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 15 章Ⅱについて予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	信仰の自由（含む、思想良心の自由） 信教の自由とその限界	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 10 章Ⅰ Ⅱについて予習・復習
11	政教分離原則	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 10 章Ⅲについて予習・復習
12	表現の自由　なぜ表現の自由か？ 誰の表現の自由か？	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 11 章Ⅰ Ⅲについて予習・復習
13	表現の自由の限界	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 11 章Ⅱについて予習・復習
14	経済的自由　職業選択の自由　居住移転の自由	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 12 章Ⅰ Ⅱについて予習・復習
15	経済的自由　財産権	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 12 章Ⅲについて予習・復習
16	社会権　生存権 労働基本権	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 14 章について予習・復習
17	人身の自由	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 13 章について予習・復習
18	平和主義	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 7 章について予習・復習
19	天皇制	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 6 章について予習・復習
20	国会　国権の最高機関　唯一の立法機関	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 3 章Ⅰ Ⅱについて予習・復習
21	二院制　国会議員　選挙制度	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 3 章ⅢⅣ第 2 章について予習・復習
22	行政権　内閣　議院内閣制	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 4 章Ⅰ Ⅲについて予習・復習
23	行政組織	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 4 章Ⅱについて予習・復習
24	司法制度	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 5 章Ⅰ Ⅱについて予習・復習
25	違憲審査　最高法規	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	教科書第 5 章ⅢⅣについて予習・復習
26	地方自治制度	講義及び質疑応答 リアクションペーパー	別途配布資料について予習・復習
	定期試験を実施する Final Exam will be held.		
27	定期試験の答案返却講評と問題解説	講評及び質疑	教科書全体を概観する
28	全講義を通じた問題意識に係る質疑	質疑	教科書全体を概観する

テキスト	駒村圭吾『プレステップ憲法（第 2 版）』（弘文堂）
参考書	下記は一読を推奨する書物である。 佐藤功『憲法と君たち』（時事通信社）　佐藤幸治『世界史の中の日本国憲法』（左右社）
その他特記事項	世の中の動きによっては、授業計画にかかわらず、当該問題の考察を行うことがある。「憲法」という科目は社会科学に属する科目であり、常日頃から社会状況に目を向けている必要がある。それゆえ、新聞を読む習慣を身に着け、現実の憲法問題に気付けるようになろう。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">LAW200:　法学</td><td>担当教員</td><td>廣見　正行</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>秋</td><td>開講時限</td><td>火金 4 限</td><td>研究室</td><td>4 号館 2 階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>選択</td><td>単位</td><td>4</td><td>標準受講年次</td><td>1・2 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP(卒業認定・学位授与の方針)概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>2-①</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">法学、憲法、刑法、民法、国際法、裁判</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">この講義では、法学一般および基本法律科目の基礎的知識を学習する。第 8 回までは、専門的な法分野（憲法、刑法、民法、国際法等）に「共通」する基本的な法理論を学習する。第 9 回以降は、基本法律科目とされる憲法、刑法、民法に加えて国際法の 4 科目の全体像、基本原則および重要判例を学習する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">・現実に生じている社会問題を法的観点から分析し、解決策を提示することができるようになること。
・国内社会および国際社会の基本構造、そのような社会を規律する各法律の基本的理論を理解すること。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">・紛争を法的に処理する制度について理解し、実際の社会問題に応用することができるようになること。
・基本法律科目の全体像、基本原則、重要判例を正確に理解し、説明することができるようになること。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">中間試験 2 回（25%×2＝50%）、期末試験（25%）、授業への積極的参加（25%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">・中間試験 1 回目：専門的な法分野に共通する法学一般の基本的な法理論を理解しているか
・中間試験 2 回目：憲法、刑法の全体像、基本原則を理解しているか
・期末試験：民法、国際法の全体像、基本原則を理解しているか
・授業への積極的参加：質問について考え、応えているか（正解不正解は問わない）</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">授業計画</th></tr>
<tr><th>回</th><th>テーマおよび学習内容</th><th>運営方法、教育手法</th><th>準備学修（予習・復習）</th></tr>
<tr><td>1</td><td>法学の全体像・分類、法学の学習方法
法律にはどのような種類があるのか？</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>2</td><td>法律の構造、法律用語
六法の見方・読み方</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>3</td><td>立法
法律はどのように作られるか？</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>4</td><td>司法①
日本の裁判の仕組みを理解する</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>5</td><td>司法②（刑事訴訟法）
刑事裁判の仕組みを理解する</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>6</td><td>司法③（民事訴訟法）
民事裁判の仕組みを理解する</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>7</td><td>執行（法の実現・強制）
法律の違反にどのように対処するか？</td><td>講義
質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
<tr><td>8</td><td>第 1～7 回目まとめ（30 分）
授業内中間試験（60 分）</td><td>講義
質疑応答</td><td>【予習】試験の勉強</td></tr>
<tr><td>9</td><td>試験返却・解説（30 分）
憲法および刑法のガイダンス（70 分）</td><td>試験返却・講評
講義・質疑応答</td><td>【復習】レジュメの復習</td></tr>
</table>

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	憲法①（総論） 日本国憲法の基本原理について理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
11	憲法②（統治機構論） 三権分立を理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
12	憲法③（人権論） 憲法で保障される人権とは？	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
13	刑法①（総論） 犯罪はどのように成立するか？	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
14	刑法②（総論） 刑罰はどのように科されるか？	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
15	刑法③（各論） 個別具体的な犯罪要件を理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
16	第 10～15 回まとめ（30 分） 授業内中間試験（60 分）	講義 質疑応答	【予習】試験の勉強
17	試験返却・解説（30 分） 民法および国際法のガイダンス（70 分）	試験返却・講評 講義・質疑応答	【復習】レジュメの復習
18	民法①（総則） 民法の基本原則について理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
19	民法②（債権（契約）法） 契約のルールについて理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
20	民法③（不法行為法） 法的責任について学ぶ	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
21	民法④（家族法） 家族に関するルールを理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
22	国際法①（法源論） 国際法とは何か？	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
23	国際法②（紛争処理） 国際紛争の平和的解決について理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
24	国際法③（国際環境法） 地球環境を保護するルールを理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
25	国際法④（武力行使） 国際安全保障について理解する	講義 質疑応答	【予習】指定判例を読む 【復習】レジュメの復習
26	第 18～25 回まとめ（60 分） 全体を通しての質疑応答（40 分）	講義 質疑応答	【予習】試験の勉強
	定期試験を実施する Final Exam will be held.		
27	法律学全体のまとめ 法律学を理解する	講義 質疑応答	【復習】レジュメの復習
28	試験返却・解説	講義 質疑応答	【復習】試験問題を見直す

テキスト	池田真朗ほか編『法学六法 ’19』（信山社、2019 年） その他、必要な資料は講義の際に配布あるいは Moodle で配布する
参考書	富永晃一ほか『実戦への法学入門』（中央経済社、2016 年） 各専門法分野の参考書は授業内で紹介する
その他 特記事項	テキスト指定の六法は毎授業参照しますので、必ず持参してください。

科目名	EDU200: 教育学					担当教員	杉村 美佳
開講期	春	開講時限	火金３限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	発達と教育、発達心理、教育思想、教育史、教育問題、教育改革、グローバル化と教育
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて心理学的、思想的、歴史的、国際的なアプローチから探究することを通して、教育学の基礎理論を学ぶ。さらに、学力格差、いじめや不登校、外国籍児童の教育など、現代の学校教育を取り巻く諸問題を取り上げ、その要因や社会的背景、課題解決の方途を探る。最後に各自が関心のある教育事象を取り上げてレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。
達成目標	教育という営みについて心理学的、思想的、歴史的、国際的視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を理解し、教育事象を教育学的視点から論理的、批判的に考察することができるようになることを目的とする。
到達目標	①教育学の諸分野や基礎理論について的確に理解し、概要を説明することができる。 ②現代の教育を取り巻く諸問題の背景や現状を理解し、課題を論述することができる。 ③教育事象に関するレジュメの作成やプレゼンテーションを通して、教育学的視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、その結果を効果的に発表することができる。
評価方法	①授業時に課すリアクション・ペーパー（30%）、②授業内試験（30%）、 ③レジュメ（20%）、④プレゼンテーション（20%）
評価基準	①リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ②授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 ③レジュメ：参考文献の内容を理解し、教育学的観点から論理的に論述できているか。 ④プレゼンテーション：パワーポイントなど発表を効果的にする資料を準備し、わかりやすく伝える工夫をしているかによって評価をする。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	教育学とは—教育学の諸分野—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.38-41 の一読 配布プリントの復習
2	子どもを取り巻く社会の変化 —少子化・情報化・子どもの貧困—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.45-49 の一読 配布プリントの復習
3	人間の発達と教育（1）幼児期	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.41-45 の一読 DVD の内容の要約・考察
4	人間の発達と教育（2）児童期	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.27-31 の一読 DVD の内容の要約・考察
5	人間の発達と教育（3）青年期	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.6-12 の一読 配布プリントの復習
6	道徳性の発達と教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.120-125 の一読 配布プリントの復習
7	子ども観・教育観の変遷（1）コメニウス・ロック	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.77-80 の一読 配布プリントの復習
8	子ども観・教育観の変遷（2）ルソー	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.81-84 の一読 配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	子ども観・教育観の変遷（3）デューイ	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.85-87 の一読 DVD の内容の要約・考察
10	幼児教育の思想―フレーベル・モンテッソーリー―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.87-88 の一読 DVD の内容の要約・考察
11	明治期の教育―義務教育制度の成立―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.69-70 の一読 配布プリントの復習
12	大正期の教育―大正新教育運動の展開―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.66-68 の一読 DVD の内容の要約・考察
13	昭和期の教育―戦後の教育制度改革―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.70-72 の一読 配布プリントの復習
14	現代日本の教育改革―学歴主義社会の改革と生涯学習の推進―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.73-75 の一読 配布プリントの復習
15	諸外国の教育制度	講義・ディスカッション リアクションペーパー	諸外国の教育制度を調べる 配布プリントの復習
16	欧米の自由教育	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト p.87 の一読 DVD の内容の要約・考察
17	教師論	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.90-95 の一読 配布プリントの復習
18	カリキュラム論―学習指導要領の変遷―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.52-57 の一読 配布プリントの復習
19	教育方法論―教育方法の日米比較―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	配布プリントの一読 DVD の内容の要約・考察
20	グローバル化と教育（1）外国につながる子どもと国際理解教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.18-20 の一読 配布プリントの復習
21	グローバル化と教育（2）シティズンシップ教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	日本の市民教育を調べる 配布プリントの復習
22	小括・授業内試験	講義・質疑応答・ 授業内試験	21 回目までの授業内容の復習
23	試験の返却と解説・プレゼンテーションの準備	講義・グループワーク	プレゼンテーションの準備
24	学校教育の今日的課題（1）生きる力の育成とアクティブ・ラーニング	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習
25	学校教育の今日的課題（2）学力格差	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習
26	学校教育の今日的課題（3）いじめ	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	学校教育の今日的課題（4）不登校・学級崩壊	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習
28	学校教育の今日的課題（5）小学校の英語教育	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジュメの復習

テキスト	内海﨑貴子 編著『教職のための教育原理』（八千代出版）
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理』（有斐閣アルマ）

科目名	EDU200:　教育学					担当教員	小林　尚平
開講期	秋	開講時限	火金２限	研究室	４号館２階講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	教育原理、教育思想、教育問題、教育史、多文化教育、インクルーシブ教育
授業の概要	「教育・学び」とは何かという教育学の根本的な問いに対して、思想的、歴史的、社会学的、障害学的なアプローチから探求するとともに、教育学の基礎理論を学ぶ。さらに、他者と共に生きることについて、多文化教育、インクルーシブ教育に関わる課題を取り上げ、共生社会に向けた現代の教育問題に関する理解を深め、その社会的・歴史的背景や課題解決について探っていく。授業毎にグループディスカッションで理解を深めるとともに、授業後半において各自が関心のある教育事象を選択しレジュメ作成とプレゼンテーションを行う。
達成目標	教育学について、多様なアプローチ（思想的、歴史的、社会学的、障害学的、国際的な視点など）から探求することを通して、教育学の知識を深めるとともに、教育事象に関して参考文献や実証的な論拠をもとに論理的、批判的に分析・考察し、その結果を分かりやすく文章およびプレゼンテーションで発表できるようになることが目的である。
到達目標	①教育学の諸分野や基礎理論について正しく理解し、その概要について説明するとともに、現代的な意義を考察することができる。 ②現代の教育問題の現状把握をするとともに、その歴史的・社会的背景について探求し、課題を論理的に捉え明確に説明し、グループディスカッションの相互的対話からメンバーとともに建設的な結論を見出すことできる。 ③他者に対して分かりやすく、明確で工夫のあるレジュメ資料を作成し、教育学的視点から論理的・批判的に考察し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
評価方法	授業時の積極的な参加・リアクションペーパー（30%） 授業内試験（40%） レジュメ・プレゼンテーション（30%）
評価基準	リアクションペーパー：授業に積極的に参加し、グループディスカッションや授業内容をふまえて、理論・実践・背景などを明確に理解し論理的に考察できているか。 授業内試験：授業内容を正しく理解し、設問に対して正確に答えられているか。 レジュメ・プレゼンテーション：参考文献や実証的なデータを明示し効果的で分かりやすく見やすい構成になっているかどうか、また教育学的視点から論理的な説明になっているか。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	教育・学びとは何か	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第1章の一読 配付プリントの復習
2	教育学における「比較」について	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第2章の一読 配付プリントの復習
3	社会と学校	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第3章の一読 配付プリントの復習
4	教師の専門性とその職業の意義	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第4章の一読 配付プリントの復習
5	家庭教育・しつけ―学校教育外での学び―	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第5章の一読 配付プリントの復習
6	隠れたカリキュラム	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第6章の一読 配付プリントの復習
7	教育と再生産―諸外国の事例と比較して―	講義･ディスカッション･リアクションペーパー	テキスト第7章の一読 配付プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	発達とアイデンティティ	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 9 章の一読 配付プリントの復習
9	異文化理解教育―他者を理解すること―	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 10 章の一読 配付プリントの復習
10	教育思想（1）古代～近現代の教育思想	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 11 章の一読 配付プリントの復習
11	教育思想（2）学校・教授学習の変化	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	第 10 回授業時配付プリントの予習、配付プリントの復習
12	教育と国家―ナショナリズムと教育―	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 12 章の一読 配付プリントの復習
13	日本の近代化と教育制度	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 13 章の一読 配付プリントの復習
14	人権と教育	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 14 章の一読 配付プリントの復習
15	国際教育協力・開発教育	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 15・16 章の一読 配付プリントの復習
16	教育とジェンダー	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 17 章の一読 配付プリントの復習
17	特別支援教育と合理的配慮―教育における公平性と平等性―	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 19・28 章の一読 配付プリントの復習
18	インクルーシブ教育 オリンピック・パラリンピック教育	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配付プリントの一読 配付レジュメの復習・実践
19	教育評価と選抜	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 20 章の一読 配付プリントの復習
20	道徳教育と愛国心	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 21 章の一読 配付プリントの復習
21	多文化教育	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 22・24 章の一読 配付プリントの復習
22	学校教育における諸問題―いじめ・体罰―	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 26・27 章の一読 配付プリントの復習
23	小括・授業内試験	講義・質疑応答・授業内試験	第 22 回までの授業内容の復習
24	試験の返却と解説・プレゼンテーションの準備	講義・解説・プレゼンテーション準備	試験問題の復習 プレゼンテーションの準備
25	現代における教育的課題の批判的考察（1） 教育における機会均等と平等性	プレゼンテーション・討議・解説	プレゼンテーションの準備 配付レジュメの復習
26	現代における教育的課題の批判的考察（2） 学力観の変化とコンピテンシー・ベイス	プレゼンテーション・討議・解説	プレゼンテーションの準備 配付レジュメの復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	現代における教育的課題の批判的考察（3） 共生社会と教育　―国際理解教育・インクルーシブ教育―	プレゼンテーション・討議・解説	プレゼンテーションの準備 配付レジュメの復習
28	現代における教育的課題の批判的考察（4） 教員の専門性と子どもとの関わり	プレゼンテーション・討議・解説	プレゼンテーションの準備 配付レジュメの復習

テキスト	岡田昭人　編著『教育学入門―30 のテーマで学ぶ―』（ミネルヴァ書房）
参考書	内海崎貴子　編著『教職のための教育原理（第 2 版）』（八千代出版）

科目名	ECN200:　経済学					担当教員	白瀬　宗範
開講期	春	開講時限	火金４限	研究室	４号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	経済学、価格理論、ミクロ経済学、マクロ経済学
授業の概要	経済学の基礎を学びます。価格理論、ミクロ経済学、マクロ経済学といった各分野を概観し、その理解に必要な数学も学習します。新聞記事なども利用し、理論だけでなく、現実の経済問題への応用も取り入れます。数学や計算の小テストを数多く取り入れます。
達成目標	経済事象を論理的に理解し、他者に説明することができる。新聞やニュースなどで取り上げられる経済事象を価格理論、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論を用いて理解し、説明する。
到達目標	・経済学の基礎理論及びそのための基礎的数学を理解する。 ・現実の経済問題を経済学の理論で理解できる。 ・日々の経済事象に興味を持ち、経済学の理論で説明できる。
評価方法	授業内の各テストの合計 70%（すべての小テストと総合テストの合計得点を、満点が 70 ポイントとして換算)、授業参加 30%。
評価基準	総合テスト及び小テスト：設問に対し経済学の理論を使って説明できているか。 授業参加：単なる出席だけではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容も授業へ参加態度として評価の対象とする。
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、学び方、参考書紹介	講義、質疑応答	次回範囲の予習
2	経済学のための計算・数学①	講義、演習	練習問題あり
3	経済学の諸問題／日本経済・DVD	DVD 視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
4	経済学の諸問題／途上国支援・DVD	DVD 視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
5	経済学のための計算・数学②／①の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
6	ミクロ経済学／価格理論①需要と価格	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習（第 1 章）
7	ミクロ経済学／価格理論②供給と価格	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 2 章）
8	ミクロ経済学／価格理論③各曲線のシフト	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 2、3 章）
9	ミクロ経済学／価格理論④価格の決定	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 2、3 章）
10	ミクロ経済学／価格理論⑤応用	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 2、3 章）
11	これまでの復習と小テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
12	経済学のための計算・数学③／②の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
13	ミクロ経済学／弾力性①弾力性とは	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 3 章）
14	ミクロ経済学／弾力性②需給曲線と弾力性	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 3 章）
15	ミクロ経済学／弾力性③弾力性の応用	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 3 章）
16	ミクロ経済学／市場の失敗と政府の役割①市場経済、貨幣	講義、質疑応答	授業内容をテキストで復習、予習（第 5 章）
17	ミクロ経済学／市場の失敗と政府の役割②資源配分と所得分配	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 5 章）
18	これまでの復習と小テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認
19	経済学のための計算・数学④／③の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
20	マクロ経済学①GDP 入門	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 6 章）
21	マクロ経済学②GDP の構成	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 6 章）
22	マクロ経済学③財政政策・金融政策	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 7 章）
23	マクロ経済学④各国の政策、為替レート	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習（第 7 章）
24	これまでの復習と小テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認
25	経済学の諸問題／日本経済②・DVD	DVD 視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
26	総合テスト（経済学及び数学）とこれまでの復習	講義、テスト演習	理解度の確認
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	テストの返却と解説、学習した内容の確認	講義・ディスカッション	ディスカッションの準備
28	学習した内容全般に関する質疑応答	講義・ディスカッション	各自の疑問点の整理

テキスト	岩田規久男『経済学への招待』（新世社）
参考書	岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書）

科目名	BUS200:　経営学					担当教員	白瀬　宗範
開講期	秋	開講時限	火金２限	研究室	４号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	経営学、戦略論、組織論、マーケティング、簿記・会計学、財務分析
授業の概要	経営学の基礎を学びます。企業理論の基礎から始まり、広範な経営学の理論を体系的に概観します。理論だけでなくケーススタディも重視し、映像や新聞記事などの各種コンテンツも活用します。経済学同様、数字やデータの取り扱いも重要であるため、経営学のための数学、統計学の基礎も学習する予定です。
達成目標	経営学の基礎理論を学習することで、企業活動を理論的に理解する。企業に関する諸事象を戦略論、組織論、マーケティング、会計学・財務分析の基礎理論を用いて理解し、他者に説明できるようになる。
到達目標	・経営学各分野の基礎理論及びそのための数学的基礎を理解する。 ・企業活動をケーススタディとして、理解を深める。 ・社会における企業の役割に興味を持ち、自分なりの企業観を育てる。
評価方法	期末レポート30%、授業内テスト40%（すべての中間テストと小テストの合計得点を、満点が40ポイントとして換算）、授業参加30%。
評価基準	・期末レポート：設題について学習した内容を踏まえて論理的に論述できているか。また、参考文献リストの添付など、適切な書式で提出しているか。 ・授業内テスト：設問に対し経営学の理論を使って説明できているか。 ・授業参加：単なる出席だけではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容も授業へ参加態度として評価の対象とする。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、学び方、参考書紹介	講義、問題演習	次回範囲の予習
2	経営学のための数学①百分率と経営学	講義、問題演習	練習問題あり
3	経営学の基礎①ビジネス記事の読み方	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
4	経営学の基礎②株式会社とは	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
5	経営学の基礎③経営の実例	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
6	経営戦略論①ビジョンとは	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
7	経営戦略論②戦略とストーリー	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
8	経営学のための数学②速度算と経営学 小テスト	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
9	マーケティング①ターゲティング	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	マーケティング②マーケティング手法	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
11	経営組織論①モチベーション	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
12	経営組織論②リーダーシップ	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
13	これまでの復習と中間テスト	講義、中間テスト	模範解答と照合、解説
14	経営学のための数学③損益算と経営学 小テスト	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
15	会計学＆財務分析①簿記会計入門	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
16	会計学＆財務分析②損益計算書	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
17	会計学＆財務分析③貸借対照表	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
18	会計学＆財務分析④財務分析入門	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
19	会計学＆財務分析⑤練習問題による演習	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
20	これまでの復習と中間テスト 小テスト	講義、問題演習、小テスト	模範解答と照合、解説
21	ケーススタディ①コンプライアンス	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
22	ケーススタディ②CSR	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
23	ケーススタディ③日本企業の歴史	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
24	経営学のための数学④データと経営学 小テスト	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
25	レポート・プレゼンテーションと演習①	プレゼンテーションと質疑応答	プレゼンテーションの内容を Web で確認
26	レポート・プレゼンテーションと演習②	プレゼンテーションと質疑応答	プレゼンテーションの内容を Web で確認
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	経営学のための数学／これまでの復習と総合テスト	講義、問題演習、総合テスト	模範解答と照合、解説
28	テストの返却と学習した内容全般の質疑応答	講義、質疑応答	各自の理解確認

テキスト	特に指定しません。適宜プリント（経営学各分野の基礎、関連記事、ケーススタディ等に関する資料）を配布します。
参考書	榊原清則『経営学入門（上）（下)』（日経文庫）

科目名	SWF200:　社会福祉入門					担当教員	栃本一三郎・寺田誠
開講期	秋	開講時限	火金３限	研究室	４号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	１・２年	連絡先	
DP及び 学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				2-①	
キーワード	社会福祉の広がりと深さ、社会政策、主体としての社会福祉、客体としての社会福祉						
授業の 概要	社会福祉についての基礎的理解のために入門的かつ刺激的な授業を行います。今までの福祉観が一変するでしょう。テキストはもちろんですが、企業や地域の福祉の最前線の議論、また正確で確実な知識（の取得法）、物事を深く理解するための訓練の場とするとともに、大手企業や大学進学、留学を目指す学生にとっても必須の知識としての社会福祉、女性にとっても知っておくべき社会保障や社会福祉の知識を教授します。						
達成目標	従来の社会福祉教育で行われてきた狭義の社会福祉ではなく、①社会保障も視野においた広義の社会福祉について現状、制度、法律について基礎的知識を得るとともに、②自分の言葉でも説明できるようになる。③さらに新聞で取り上げられる内外の社会福祉や社会保障、社会問題の記事についてある程度専門的視点から読み解くことができるようになる。						
到達目標	授業および教科書に書かれている事柄を自分で調べ、理解し、さらに他者に説明できるようになる。また自分で考え、世間の理解とは異なる深い読み方が出来るようになる。学問としての社会福祉という視点を得られるようになる。						
評価方法	①毎週の新聞の切り抜きとコメント（20%）、②授業時の積極参加（15%）、③授業毎のリアクションペーパー（15%）、④期末課題（2,500字以上レポート）（50%）						
評価基準	評価方法の割合に応じた合計点によって成績評価を行う。①国内外の社会福祉や社会保障、社会問題の新聞記事を切り抜いて提出かつコメント（200字以上）を付ける。提出回数とコメントの妥当性によって４段階評価。②漫然と授業を受けるのではなく予習・復習がなされているか、質疑応答やディスカッションを行いつつ評価する。③自分なりにその日（回）の学習内容やキーワードは何だったかを確認しながら記述。コメントの内容によって理解度を見て評価。疑問点は次の授業で解説する。④配付資料や紹介した文献をもとに自分が関心を寄せるテーマについて、講義やディスカッションで得た視点やアプローチを使いながら自分の考えをきちんと論じることができるかを判断し評価。						
準備学修 の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。						

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	イントロダクションー講義の進め方、テキストの読み方	講義、ディスカッション リアクションペーパー	テキスト序章を予習
2	社会福祉とは何か①ー社会福祉と社会保障、社会福祉の基礎概念	講義、新聞切抜き提出 （以下「新聞」）	テキスト第１章第１節を予習、配付資料の復習
3	社会福祉とは何か②ー日本における社会福祉の内容と展開、歴史的連続性	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第１章第２節を予習、配付資料の復習
4	社会福祉をどう捉えるか①ー学問として	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第１章から第３章までの熟読
5	社会福祉とは何か③ーソーシャルポリシー、ニーズの種類、社会福祉の資源	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第１章第３ー４節を予習、配付資料の復習
6	社会福祉とは何か④ー現金給付と現物給付、普遍主義と選別主義、シチズンシップ	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第１章第４節を予習、配付資料の復習
7	社会福祉の動向①ー少子高齢社会、人口減少社会、これからの人口推計	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第２章第１節を予習、配付資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	社会福祉の動向②－在宅福祉、地域福祉、地域包括ケアシステム、NPO	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第2－3節を予習、配付資料の復習
9	社会福祉をどう捉えるか②－実践者として	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
10	社会福祉をどう捉えるか③－広がり	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
11	社会福祉の動向③－社会福祉8法改正、社会福祉の基礎構造改革、	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第4－5節を予習、配付資料の復習
12	社会福祉の動向④－社会福祉の基礎構造改革、社会福祉法の改正	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第4－5節を予習、配付資料の復習
13	社会福祉の法と行財政①－社会福祉の法制度、社会保障、社会福祉6法	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第1節を予習、配付資料の復習
14	社会福祉の法と行財政②－昭和25年勧告、社会保障と社会福祉、社会保険	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第2節を予習、配付資料の復習
15	社会福祉をどう捉えるか④－深さ	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
16	社会福祉をどう捉えるか⑤	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
17	社会福祉の法と行財政③－社会保障給付費、国民負担率、税と社会保障	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第3－4節を予習、配付資料の復習
18	社会福祉の供給体制①－政府部門、民間非営利部門、民間営利部門、インフォーマル部門	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第1－2節を予習、配付資料の復習
19	社会福祉の供給体制②－供給体制の変遷と今後、公私関係、政府間関係	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第3－4節を予習、配付資料の復習
20	社会福祉専門職－社会福祉の人材の概況、人材確保、感情労働、継続教育	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第5章を予習、配付資料の復習
21	社会福祉援助技術－社会福祉援助技術を学ぶ視点、基本的要素、専門職と倫理	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第6章を予習、配付資料の復習
22	社会政策の重要性①－社会のデザイン	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
23	社会政策の重要性②－国のデザイン	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
24	利用者の視点からみたサービスの利用支援①－事業者の情報、第三者評価	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第7章を予習、配付資料の復習
25	社会福祉の重要性③－社会福祉のデザイン	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
26	利用者の視点から見たサービスの利用支援②－苦情解決、権利擁護	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第7章を予習、配付資料の復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	社会福祉の重要性④－現場のデザイン	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
28	まとめ－新しい視点とは何か 期末課題提出	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章を今一度復習

テキスト	栃本一三郎編（2006）『新しい視点で学ぶ社会福祉－保育士を志す人のために』（光生館）
参考書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーング・タウン　社会福祉入門改訂版』（有斐閣アルマ）
その他 特記事項	＊栃本：1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27 回担当（予定） 寺田：2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28 回担当（予定）

科目名	JRN201:　マスメディア論					担当教員	アルン・デソーザ
開講期	春／秋	開講時限	月木５限	研究室	４号館２階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	ジャーナリズム・メディア歴史と理論、現代社会とメディア、メディア教育、メディア倫理
授業の概要	欧米から始まるマス・メディアとジャーナリズムの歴史と理論を基に、マス・メディアに関する研究がどのように成立してきたか、基礎的な概説を行う。そして、現代社会におけるマス・コミュニケーション、マス・メディアの社会的影響やその役割を考えるにあたり、メディア理論の諸問題についても概観していく。
達成目標	メディアの歴史・理論・現状と社会との関係性を理解し、現代社会を取り巻く諸問題について、批判的に考えることができるようになる。
到達目標	本科目を通じて、メディアの歴史や理論を理解することで、マス・メディアが私たちに提供する情報やニュースに関する正確な理解のし方、批判的思考を身に付ける。
評価方法	▸Reaction Paper（25%）、▸Reflection Paper（15%） ▸中間レポート（30%）、▸期末レポート（30%）
評価基準	▸Reaction Paper：指定のテーマについて、講義内容を踏まえて自分の意見を述べられているか。計25回行う。 ▸Reflection Paper：ワークショップの内容についてまとめることができるとともに、自分の考えを深められているか。計3回行う。 ▸中間レポート・期末レポート：ジャーナリズム・メディアを題材にした指定のテーマについて、論理的かつ独創的に述べられているかどうか。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Introduction: ジャーナリズム・メディア・コミュニケーション	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 Reaction Paperへの準備
2	メディアの歴史①：欧州	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 Reaction Paperへの準備
3	メディアの歴史②：米国	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習　授業の1回目と2回目のふり返り
4	メディアの歴史③：日本ー近代	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 現在メディア史への導入
5	メディアの歴史④：日本ー現在	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 メディア理論への準備
6	メディア理論①：メディア効果論	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ①準備
7	メディア理論②：メディア研究	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ①準備
8	メディア理論③：Cultural Studies	講義、Discussion、Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ①準備
9	ワークショップ①　歴史と理論	Discussion、Reflection Paper	予習・復習 ワークショップ①ふり返り

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	メディアの現状①：出版－新聞、雑誌	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ①ふり返り
11	メディアの現状②：放送－テレビ、ラジオ	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Reaction Paper への準備
12	メディアの現状③：インターネット	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Reaction Paper への準備
13	メディアの現状④：報告、広報	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Reflection Paper への準備
14	メディアの現状⑤：SNS、New Media	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ②準備
15	調査報道	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ②準備
16	国際コミュニケーション	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ②準備
17	ワークショップ②　現代メディア	Discussion、 Reflection Paper	予習・復習 ワークショップ②ふり返り
18	現代社会とメディア	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Discussion への準備
19	個別テーマ①：メディアと政治・経済	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Reaction Paper への準備
20	個別テーマ②：メディアと宗教・平和	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Discussion への準備
21	個別テーマ③：メディアと倫理・責任	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Reaction Paper への準備
22	個別テーマ④：メディアと紛争・戦争	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 Reflection Paper への準備
23	個別テーマ⑤：メディアと災害・復興	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ③準備
24	個別テーマ⑥：メディアと教育・養成	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ③準備
25	ワークショップ③　メディアの役割と責任	Discussion、 Reflection Paper	予習・復習 ワークショップ③準備
26	アジアにおけるメディア①　東アジア	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ワークショップ③ふり返り
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held.		
27	アジアにおけるメディア②　南アジア	講義、Discussion、 Reaction Paper	予習・復習 ふり返りアンケート調査
28	総括	講義、Discussion	全体のふり返りとまとめ

テキスト	特定のテキストを設けず、本シラバスに記載の参考書と講義中に紹介する追加の参考書をもとに、作成した電子資料を掲載する。受講者は各自ダウンロード・印刷をし、持参する。
参考書	浜田純一、田島泰彦、桂敬一編『新訂新聞学』（日本評論社） ビル コヴァッチ、トム ローゼンスティール著、加藤岳文、斎藤邦泰訳『ジャーナリズムの原則』（日本経済評論社）

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">COM101:　基礎コンピューター演習</td><td>担当教員</td><td>森本　貴之</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春</td><td>開講時限</td><td>火 2 限
火 3 限</td><td>研究室</td><td>4 号館 2 階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>選択</td><td>単位</td><td>2</td><td>標準受講年次</td><td>1・2 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP（卒業認定・学位授与の方針）概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>2-②</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">コンピューター，情報リテラシー，情報処理，Word，Excel，PowerPoint</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">コンピューターを利用して、情報を収集・処理し、文書にまとめ、プレゼンテーションを行うための基礎的な技法について実習を通じて学ぶ。また、ネット上におけるモラルやセキュリティをはじめとする、知っておくべき情報リテラシーについて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">大学生そして社会人として要求される情報リテラシーおよびコンピューターを利用した情報処理の基本を身につけることを目的とする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">・ネット上におけるセキュリティの意識付けやマナーを身につけ、実践する。
・情報分野における基本的かつ汎用的なリテラシーを習得する。
・文書作成、データ処理、プレゼンテーションのためのソフトウェアの基本操作を習得する。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">・授業ごとの演習課題（合計 7 回）55%
・単元末の総合課題 45%（内訳：Word を使用したレポート作成 15%、Excel を使用したデータ処理 15%、PowerPoint を使用したプレゼンテーションの実演 15%）</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">・授業ごとの演習課題：その日の授業内容がどれだけ理解できているか。
・レポート作成：必要な情報を収集し、適切な書式や表現でまとめられるかどうか。
・データ処理：様々なデータに対して意図した処理が実現できるかどうか。
・プレゼンテーションの実演：集めた情報を基に発表のための資料を作成し、他者にどれだけ伝えることができるかどうか。</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。</td></tr>
</table>

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	PC（Windows）の基本操作	解説、PC 実習	実習で使用する PC アカウントの準備
2	Word による文書作成（1） Word の基本操作、基本的な文書の作成	解説、PC 実習	第 2 回授業の演習課題
3	Word による文書作成（2） 文書の編集、書式設定等	解説、PC 実習	第 3 回授業の演習課題
4	Word による文書作成（3） 表の作成・編集、図の挿入等、総合演習	解説、PC 実習	単元末の総合課題
5	Excel による表計算（1） Excel の基本操作、表の作成・編集	解説、PC 実習	第 5 回授業の演習課題
6	Excel による表計算（2） 関数の利用等	解説、PC 実習	第 6 回授業の演習課題
7	Excel による表計算（3） データ処理と統計処理	解説、PC 実習	第 7 回授業の演習課題
8	Excel による表計算（4） グラフの作成	解説、PC 実習	第 8 回授業の演習課題
9	Excel による表計算（5） 条件付き書式等、総合演習	解説、PC 実習	単元末の総合課題
10	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成（1）　基本操作	解説、PC 実習	第 10 回授業の演習課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成（2）　アニメーション設定等	解説、PC 実習	単元末の総合課題（資料作成、発表練習）
12	PowerPoint によるプレゼンテーションの実演（1）	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
13	PowerPoint によるプレゼンテーションの実演（2）	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	PowerPoint によるプレゼンテーションの実演（3）	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習

テキスト	なし。担当教員が作成した資料（電子ファイル）を Moodle で配付する。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">COM101:　基礎コンピューター演習</td><td>担当教員</td><td>津垣　正男</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>秋</td><td>開講時限</td><td>火 3 限
金 3 限</td><td>研究室</td><td>4 号館 2 階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>選択</td><td>単位</td><td>2</td><td>標準受講年次</td><td>1・2 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP(卒業認定・学位授与の方針)概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>2-②</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">情報処理、情報リテラシー、Office、Word、Excel、PowerPoint、Html</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">大学生として必要最低限のコンピュータスキルを身に付けるための演習であり、PC ルームで実際にパソコンを動かしながら PC の基本的な操作と情報リテラシーを学ぶ。具体的にはパソコンの基本（主にタイピング）、Word、Excel、PowerPoint の基本的な操作、Html の学習を通じてインターネットの仕組みを学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">①　タッチタイピングを身につける。
②　Word、Excel、PowerPoint の基本的な操作を身につける。
③　Web ページ作成の基礎を身につける。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">①　短時間に正確な入力作業を行うことができる。
②　Word、Excel、PowerPoint の基本的な機能を用いた資料（レポート、資料の整理、発表資料）の作成を行うことができる。
③　シンプルな Web ページを作成することができる。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">タイピング課題（10%）：P 検の無料タイピング練習のインターネット版（ソーシャル投稿非対応）の英語入力を用いた測定を行う。評価における点数は設けず、ある基準を超えることを必須とする。測定は何度も行う。
web サイト：http://www.pken.com/tool/typing.html

演習課題（50%）：毎回の授業においてその回の理解度をはかるための演習課題を課す。また、PowerPoint を用いたプレゼンテーションも行ってもらう。

レポート課題（40%）：授業を Word、Excel、PowerPoint、Html の単元に分け、各単元の最後にレポートを課す。</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">タイピング課題：3 分間で正打率 95%以上、文字数 390 以上を必須とする。

演習課題：指示通りに提出ファイルが作成されているかどうかをみる。

PowerPoint の実演においては、発表準備が十分にできているかどうかをみる。

レポート課題：指示通りに作成されているかどうかをみる。指示通りに作成されていない場合は再提出を求める。再提出の回数は評価に影響させない。</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。</td></tr>
</table>

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	PC（Windows）の基本操作	PC 実習、解説	アカウントの準備
2	キーボード操作とタイピング： タイピング演習（1）	PC 実習、解説	前回内容の復習
3	テキストエディタによる文章作成： 基本的な操作方法を学ぶ	PC 実習、解説	前回内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
4	Word による文章作成： 基本的な操作方法を学ぶ	PC 実習、解説	前回内容の復習
5	Word による文章作成： 総合演習、タイピング演習（2）	PC 実習、解説	前回内容の復習
6	Excel による表計算： 関数の扱い、相対参照、絶対参照 など	PC 実習、解説	Word のレポート提出
7	Excel による表計算： グラフの作成・複数のシートの操作など	PC 実習、解説	前回内容の復習
8	Excel による表計算： データベースの操作など	PC 実習、解説	前回内容の復習
9	Excel による表計算： ピボットテーブルの操作など、タイピング演習（3）	PC 実習、解説	前回内容の復習
10	PowerPoint による資料の作成： 基本的な操作など	PC 実習、解説	Excel のレポート提出
11	PowerPoint による資料の作成： 総合演習、タイピング演習（4）	PC 実習、解説	前回内容の復習
12	PowerPoint による資料の作成： プレゼンテーションの実演	PC 実習、解説	発表の準備 PowerPoint のレポート提出
13	HTML による Web ページの作成： HTML 文章の基本構造を学ぶ	PC 実習、解説	前回内容の復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	HTML による Web ページの作成： 総合演習、タイピング演習（5）	PC 実習、解説	前回内容の復習 Html のレポート提出

テキスト	『学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint』（FOM 出版）

科目名	MTH200:　数学					担当教員	津垣　正男
開講期	秋	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	

DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ､幅広い教養を修得できます。	2-①

キーワード	数学、統計学、適性検査、SPI、非言語能力、数的処理
授業の概要	統計学とは、大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータの性質を調べることで元の大きなデータの性質を推測する方法を体系化したものである。 本授業では大学における統計学の入門コースで学ぶ内容（授業計画参照）をできるかぎりやさしく解説する。また、適性検査・SPIなどにおいて出題される非言語能力（数学）の問題についての解説も行う。共に演習を多く行う。
達成目標	・統計学とは何か、統計学を用いると何ができるようになるのかを知る。 ・就職試験で必要とされる数学の知識が何であるかを知る。
到達目標	・収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算することでデータの性質を把握することができる。（記述統計） ・大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータに対し推定・検定の計算をすることで元の大きなデータの性質を把握することができる。（推測統計） ・就職試験における数学の問題を短時間で解くことができる。
評価方法	演習：60% 適性試験・SPI：毎回の授業で実際の適性試験・SPIと同様の形式の提出課題を課す。 統計学：毎回の授業で各回のテーマに関する提出課題を課す。 適性試験・SPI、統計学の提出課題の評価は共に「考え方が理解できているかどうか」を重視するので、途中計算と説明の確認を行う。 授業内試験：40% 適性試験・SPI：実際の適性試験・SPIと同様の問題を用いた試験を行う。ただし、考え方の確認も行うので、途中計算と説明の確認も行う。 統計学：授業内容の理解の確認をはかる試験を行う。 試験は、適性試験・SPIと統計学のそれぞれに対して最低2回行う（合計4回以上）。
評価基準	試験及び演習課題の得点で評価を行う。詳細は初回授業で説明する。
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	統計学について 適性試験・SPIについて	講義、演習	ノートの準備
2	統計学： 平均と分散	講義、演習	前回内容の復習
3	適性試験・SPI： 推論	講義、演習	前回内容の復習
4	統計学： エクセルを用いた平均と分散の復習	講義、演習	前回内容の復習
5	適性試験・SPI： 図形の読み取り・集合	講義、演習	前回内容の復習
6	統計学： 信頼区間（母分散が既知の場合）	講義、演習	前回内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	適性試験・SPI： 順列・組み合わせ	講義、演習	前回内容の復習
8	統計学： 信頼区間（母分散が未知の場合）	講義、演習	前回内容の復習
9	適性試験・SPI： ここまでの演習	講義、演習	前回内容の復習
10	統計学： ここまでの確認・授業内試験①	講義、演習	ここまでの内容の復習
11	適性試験・SPI： ここまでの確認・授業内試験①	講義、演習	ここまでの内容の復習
12	統計学： 試験の解説・カイ 2 乗検定	講義、演習	試験の復習
13	適性試験・SPI： 試験の解説・確率	講義、演習	試験の復習
14	統計学： カイ 2 乗検定の演習	講義、演習	前回内容の復習
15	適性試験・SPI： 料金の割引・損益算・分割払い・仕事算	講義、演習	前回内容の復習
16	統計学： 母平均の検定	講義、演習	前回内容の復習
17	適性試験・SPI： 速さ・距離・時間	講義、演習	前回内容の復習
18	統計学： 母平均の検定の演習	講義、演習	前回内容の復習
19	適性試験・SPI： 割合・比・代金の清算	講義、演習	前回内容の復習
20	統計学： 対応のない平均の差の検定	講義、演習	前回内容の復習
21	適性試験・SPI： 資料の読み取り・長文読み取り計算	講義、演習	前回内容の復習
22	統計学： 対応のある平均の差の検定	講義、演習	前回内容の復習
23	適性試験・SPI： 整数の推測・グラフの領域	講義、演習	前回内容の復習
24	統計学： 平均の差の検定の演習	講義、演習	前回内容の復習
25	適性試験・SPI： 物の流れと比率・装置と回路	講義、演習	前回内容の復習
26	統計学： ここまでの確認・授業内試験②	講義、演習	ここまでの内容の復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	適性試験・SPI： ここまでの確認・授業内試験②	講義、演習	ここまでの内容の復習
28	統計学・適性試験・SPI： 試験の解説・試験と同範囲の問題演習	講義、演習	試験の復習

テキスト	向後千春、冨永敦子 著『統計学がわかる』（技術評論社）

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">PSY200:　心理学</td><td>担当教員</td><td>奥村　桃子</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春</td><td>開講時限</td><td>月木2限</td><td>研究室</td><td>4号館2階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>選択</td><td>単位</td><td>4</td><td>標準受講年次</td><td>1・2年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP及び
学修成果</td><td>DP分類</td><td colspan="5">DP(卒業認定・学位授与の方針)概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>2-①</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">心理学の歴史、心理学研究法、認知心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、社会心理学</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">心理学の主要な領域を概観しながら、人間の心について心理学的視点から理解を深めます。基本的には講義形式ですが、テーマにより DVD などの視聴覚教材を使用したり、実際に体験することで理解を深めます。また、授業内で関連のある話題や参考図書も紹介します。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">心理学という学問の基本的な考え方や研究方法、学問成立の背景などを理解するとともに、各々の基本的な知識を習得し、心理学的視点に基づいた考え方を展開できるようになることを目標としています。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">心理学を通じて、人のこころや行動の意味について理解を深める。さらに、基礎的な心理学領域の知見から、日常生活における人間理解や社会生活に応用して思考できるようになることを目標とします。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">毎回の授業態度とリアクションペーパー50%、授業内試験4回50%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">授業態度およびリアクションペーパーによって、授業で学習したポイントを理解し適切にまとめ、質問・疑問を通じて積極的に授業に参加しているかどうか、また授業内に行う試験によって学習内容を理解しているかどうかを評価します。</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。</td></tr>
</table>

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	オリエンテーション：授業の進め方 心理学概論	講義、質疑応答、リアクションペーパー	準備学習と授業の復習
2	心理学の研究方法	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
3	心理学の歴史（1） 起源	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
4	心理学の歴史（2） 発展	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
5	第1回授業内試験実施、2回～4回の復習 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の復習と次回の準備学習
6	認知心理学（1） 認知とは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
7	認知心理学（2） 視覚認知	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
8	認知心理学（3） 注意	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
9	認知心理学（4） 記憶	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
10	第2回授業内試験実施、6回～9回の復習 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の復習と次回の準備学習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	パーソナリティ心理学（1） パーソナリティとは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
12	パーソナリティ心理学（2） 類型論と特性論	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
13	パーソナリティ心理学（3） パーソナリティの測定	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
14	臨床心理学（1） 臨床心理学とは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
15	臨床心理学（2） 心理アセスメント／心の病気Ⅰ	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
16	臨床心理学（3） 心の病気Ⅱ	講義、質疑応答、視聴覚教材、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
17	臨床心理学（4） 発達障害とは？Ⅰ（基本的な概要）	講義、質疑応答、視聴覚教材、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
18	臨床心理学（5） 発達障害とは？Ⅱ（関わり方や事例紹介等）	講義、質疑応答、視聴覚教材、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
19	臨床心理学（6） 心理療法の理論と技法	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
20	臨床心理学（7） 臨床心理学の実際	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
21	第3回授業内試験実施、11回～20回復習 解答と解説	講義、質疑応答、リアクションペーパー	試験の復習と次回の準備学習
22	社会心理学（1） 社会心理学とは？	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
23	社会心理学（2） 対人認知・他者の理解	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
24	社会心理学（3） 対人魅力、態度・コミュニケーション	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
25	社会心理学（4） 援助行動・攻撃行動	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
26	社会心理学（5） 集団の圧力	講義、質疑応答、リアクションペーパー	次回の授業準備と前回の授業復習
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
27	第4回授業内試験実施、22回～26回復習 解答と解説	授業内試験、リアクションペーパー	試験の復習と次回の準備学習
28	全体のまとめ、質疑、補足 秋学期【発達心理学】の紹介	講義、質疑応答、リアクションペーパー	講義のまとめと振り返り

テキスト	指定しない。授業に関連するプリントを配布する。
参考書	岩壁茂ら著『臨床心理学入門』（有斐閣アルマ）、道又爾ら著『認知心理学』（有斐閣アルマ）、サトウタツヤら著『心理学入門』（有斐閣アルマ）
その他特記事項	秋学期に「発達心理学」を履修する学生は、基礎知識となる「心理学」を履修しておくとよい。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">PED100:　体育理論（ウエルネスと身体）</td><td>担当教員</td><td>中澤　歩</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春／秋</td><td>開講時限</td><td>金 2 限
金 3 限</td><td>研究室</td><td>4 号館 2 階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>選択</td><td>単位</td><td>2</td><td>標準受講年次</td><td>1・2 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP(卒業認定・学位授与の方針)概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>2-③</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">健康、ライフスタイル、スポーツ、身体知、身体意識、コミュニケーション</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">ウエルネス（wellness）とは、世界保健機関（WHO）が国際的に提示している「健康」の定義をより広範囲な視点から捉えた、現代における包括的な健康観である。この授業では、健康・自己の身体に関しての知識を身につけ、日常生活における行動に結びつけられることを学ぶ。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">「健康」、「身体」についての認識をより深め、豊かなライフスタイルを構築するための自身の健康観を持つことができる。また、実際の日常生活において自身の健康観に基づき実行することができる。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">・現在の自分自身の健康状態についてウエルネスの観点から、正しく把握する。
・自分自身の健康観について論理的に展開し、表現することができる。それらを日常生活に導入することができる。
・オリンピックムーブメント、オリンピックレガシーを意識し、自身とスポーツとの関係について考えることができる。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">授業時の積極参加 25%、リアクションシート 25%、中間レポート 20%、期末レポート 30%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">授業時の積極参加：授業態度、発言、ディスカッションでの積極性
リアクションシート：授業の理解度及び、自らの学びの省察の記述
中間レポート・期末レポート：提示した書式による記述、総合的な論文構成</td></tr>
<tr><td>準備学修
の時間</td><td colspan="7">本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">授業計画</th></tr>
<tr><th>回</th><th>テーマおよび学習内容</th><th>運営方法、教育手法</th><th>準備学修（予習・復習）</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ガイダンス、ウエルネスの領域</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：シラバス確認
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>2</td><td>健康の概念</td><td>講義･ディスカッション･学生発表・リアクションシート</td><td>予習：ディスカッション資料（新聞記事）準備
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ライフスタイルと生活習慣病</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：配布資料確認
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>4</td><td>栄養バランスと健康①
　タンパク質、ビタミン、ミネラル</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：配布資料確認
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>5</td><td>栄養バランスと健康②
　脂質、炭水化物</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：配布資料確認
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>6</td><td>水分補給</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：中間レポート提出
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>7</td><td>中間レポート総評
睡眠と健康</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：配布資料確認
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>8</td><td>応急処置・心肺蘇生法</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：配布資料確認
復習：配布資料確認</td></tr>
<tr><td>9</td><td>女性の性機能と運動の関わり</td><td>講義･ディスカッション･リアクションシート</td><td>予習：配布資料確認
復習：配布資料確認</td></tr>
</table>

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	スポーツの歴史① 　球技、採点競技	講義･ディスカッション･リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
11	スポーツの歴史② 　オリンピック	講義･ディスカッション･リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
12	日常における身体知① 　動作と意識	講義･ディスカッション･学生発表・リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
13	日常における身体知② 　自己の身体知とその可能性	講義･ディスカッション･リアクションシート	予習：期末レポート提出 復習：配布資料確認
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	総括（期末レポート総評･スポーツイベント）	講義･ディスカッション･リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認

テキスト	授業内容についての資料を授業時に配布
参考書	大学生の健康・スポーツ科学研究会編『大学生の健康・スポーツ科学　改訂版』（道和書院） 『ビジュアルワイド食品成分表　文部科学省科学技術・学術審議会　資源調査分科会　報告　五訂増補日本食品標準成分表』（東京書籍） 金子明友『身体知の構造』（明和出版） 高岡英夫『身体意識を鍛える』（青春出版社）
その他 特記事項	健康管理を行う。日常生活において自分自身の健康・身体に高い関心を持つ。

科目名	PED111: 体育（球技 1）					担当教員	中澤　歩
開講期	春／秋	開講時限	火 2 限	研究室	4 号館 2 階 講師控室	オフィスアワー	P.19 を参照のこと
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2 年	連絡先	

DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要	学修成果獲得の観点
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。	2-③

キーワード	テニス技能、動感、身体知、コミュニケーション
授業の 概要	テニスはフランスでは遊びとして始まり、イギリスでルールが作られスポーツとして発展した。フランスやイギリスの貴族の人々に楽しまれていたのでルールとともにマナーが重んじられるスポーツである。生涯スポーツとして楽しむために、マナーやルール、基礎技術を習得することを目的とする。初心者やこれまで体育・スポーツが苦手な学生も歓迎する。評価は、以下の基準に基づき各自の成長度合いで判断する。
達成目標	テニスの基本技能を習得し、環境に応じたスポーツ展開の創造へと発展させることができる。スポーツ実践を通して健康の維持・増進、およびコミュニケーション能力の向上を目的とする。
到達目標	・テニスの基本技能を習得する。 ・ゲームの戦術、審判方法を理解することができる。 ・テニスの種目特性を理解し、ゲームに通じたコミュニケーション方法を習得する。 ・ゲームを楽しむことができる。
評価方法	授業時の積極参加 70%、リアクションシート 30%
評価基準	授業時の積極参加：①準備運動・整理体操を的確に行う。②用具の準備・片づけを協力して行う。③他者への声がけ。④「わざ」の運動言語による説明。⑤各自の技能に応じた「わざ」の習得。⑥ルールの理解。⑦戦術の理解。（①－⑦各 10 点満点×7=70 点） リアクションシート：毎回の授業で、身体知やコミュニケーションの視点から自らの学びの省察を記述する。（30 点）

授業計画

回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、テニスの歴史	教室に集合、リアクションシート	
2	テニス：グリップ、スイング	ペアワーク、リアクションシート	
3	テニス：フォアハンドストローク、ボレー①	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
4	テニス：フォアハンドストローク、ボレー②	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
5	テニス：バックハンドストローク	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
6	テニス：ストローク、サービス、サービスリターン	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
7	テニス：ミニゲーム①	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	テニス：ミニゲーム②	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
9	テニス：ストローク、サービス、サービスリターン	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
10	テニス：ストローク、サービス、サービスリターン	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
11	テニス：ダブルスゲーム（ルール・戦術）	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
12	テニス：ダブルスゲーム（大会運営）	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
13	室内スポーツ：卓球	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	室内スポーツ：卓球	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	

テキスト	ルールに関する資料配布
参考書	金子明友『わざの伝承』（明和出版）
その他 特記事項	スポーツウエア・スポーツシューズを着用する。 雨天時は体育館で行う。

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="5">PED111:　体育（球技 2）</td><td>担当教員</td><td>中澤　歩</td></tr>
<tr><td>開講期</td><td>春／秋</td><td>開講時限</td><td>火 3 限</td><td>研究室</td><td>4 号館 2 階
講師控室</td><td>オフィスアワー</td><td>P.19 を参照のこと</td></tr>
<tr><td>分類</td><td>選択</td><td>単位</td><td>1</td><td>標準受講年次</td><td>1・2 年</td><td>連絡先</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">DP 及び
学修成果</td><td>DP 分類</td><td colspan="5">DP（卒業認定・学位授与の方針）概要</td><td>学修成果獲得の観点</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="5">学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。</td><td>2-③</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="7">運動技能の構造、運動の発生、コミュニケーション、ニュースポーツ</td></tr>
<tr><td>授業の
概要</td><td colspan="7">球技は、運動経験（初心者～上級者）が様々であるが、各自の技能レベルと向き合い、「できない」から「できる」への運動メカニズムを体得することを学ぶ。各スポーツの基礎技術を定着させるとともに、コミュニケーション能力も高める。
それぞれの種目特性を活かしゲームを楽しむ。
評価は、以下の基準に基づき各自の成長度合いで判断する。</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="7">ゲームに必要な個人の基礎技術を取得し、個人のレベルを尊重しながら、コミュニケーション能力を高め、自身の日常生活において生涯スポーツへと発展させることができる。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="7">・各種目の技術を獲得し、ゲームを楽しむことができる。
・ゲームを通じ、コミュニケーション能力を身につけることができる。
・ルールや審判方法を理解し、ゲームの運営ができるようになる。
・オリンピックムーブメントを意識し、自身とスポーツの関係について考えることができるようになる。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">授業時の積極参加 70%、リアクションシート 30%</td></tr>
<tr><td>評価基準</td><td colspan="7">授業時の積極参加：①準備運動・整理体操を的確に行う。②用具の準備・片づけを協力して行う。③他者への声がけ。④「わざ」の運動言語による説明。⑤各自の技能に応じた「わざ」の習得。⑥ルールの理解。⑦戦術の理解。（①－⑦各 10 点満点×7＝70 点）
リアクションシート：毎回の授業で、身体知やコミュニケーションの視点から自らの学びの省察を記述する。（30 点）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">授業計画</th></tr>
<tr><th>回</th><th>テーマおよび学習内容</th><th>運営方法、教育手法</th><th>準備学修（予習・復習）</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ガイダンス、体つくり運動</td><td>ペアワーク、グループワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>バドミントン①基礎技術
サーブ、ストローク</td><td>ペアワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>バドミントン②基礎技術
フライト</td><td>ペアワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td>バドミントン③ゲーム</td><td>ペアワーク、グループワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td>バドミントン④ゲーム</td><td>ペアワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td>卓球①基礎技術
ストローク、サーブ</td><td>ペアワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>卓球②基礎技術
フットワーク</td><td>ペアワーク、グループワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td>卓球③ゲーム</td><td>ペアワーク、リアクションシート</td><td></td></tr>
</table>

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	バレーボール①基礎技術 パス、サーブ、レシーブ	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
10	バレーボール②基礎技術 トス、スパイク、フォーメーション	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
11	バレーボール③ゲーム	ペアワーク、リアクションシート	
12	ニュースポーツ①	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
13	ニュースポーツ②	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	
	定期試験を実施しない Final Exam will not be held		
14	ニュースポーツ③	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート	

その他 特記事項	スポーツウエア・スポーツシューズを着用する。 健康管理を行う。